

## 諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢島家文書 『諏方大明神畫詞』全二冊全文翻刻

二本松泰子

### はじめに

建武二年（一三三五）に起きた中先代の乱によって大祝家の権勢が衰えると、諏訪上社に仕えるその他の社家が台頭してゆく。主に戦国時代以降に力をつけてきた権祝矢島家もそのひとつであった。当家は必ずしも大祝家と一枚岩の関係であったわけではない。たとえば、天文十一年（一五四二）に大祝家当主の諏訪頼重が武田信玄に攻められて自刃すると、大祝の地位を篡奪しようとした高遠頼継が矢島満清と手を組み、頼重の遺児を擁する信玄と合戦（宮川の戦い）を起こすなどしている。このように当時は、大祝宗家と諏訪氏庶流の対立に上社五官の祝を巻き込んだ争いが頻発し、それに伴って、上社所縁の各氏族たちはそれぞれ独自の信仰伝承を主張するようになったのである。

如上の経緯を踏まえると、権祝矢島家もまた当家独自の信仰文化を有していたことが予想される。しかしながら、中世以前の当家については歴史上の事蹟に関する史料が乏しいこともあり、その信仰の実態は不明な点が多い。そのような現状を踏まえると、諏訪市博物館寄託の約二千点におよぶ矢島家伝来の文書群は、当家の知的関心を介した歴史の実像を推測させる手掛かりとして注目に値しよう。

そこで、本稿では、諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢島家文書『諏方大明神画詞』全二冊について取り上げ、全文翻刻を掲出する。当該本については、すでに井原今朝男がその存在を確認し、「権祝本に錯簡本でないものが存在することは新しい知見」（注1）であると評価している。が、その本文については未翻刻でこれまでその内容に

ついてはまったく知られていない。ちなみに、矢島家文書には、『諏訪大明神画詞』の一部本文を抜き書きした断簡（『諏訪大明神画詞草稿』（縦<sup>27.4センチ</sup>×横<sup>37.0センチ</sup>）なども含まれており、この作品に対して積極的な関心を寄せていることが窺われる。本稿では、このような矢島家文書に含まれる『諏訪大明神画詞』全二冊を翻刻紹介することによって、矢島家伝来の蔵書形成の一端を提示すると同時に、『諏訪大明神画詞』の伝本研究の一助になることを期するものである（注2）。当該書二冊の書誌については以下の通り。※矢島家文書については公式な目録を作成する途中のため、資料番号などは公開できない。

#### ① 『諏訪大明神画詞』（巻首題）

諏訪市博物館寄託。表紙は花の模様の織物の布。袋綴じ。五つ目綴じ。縦<sup>32.0センチ</sup>×横<sup>20.0センチ</sup>。半葉九行。漢字カタカナ交じり文。全二十九丁。遊紙無し。内容は「縁起上」「縁起中」「縁起第三」「縁起第四」。縦帳。

#### ② 『諏方大明神畫詞』（巻首題）

諏訪市博物館寄託。紙縫り綴じ。縦<sup>32.0センチ</sup>×横<sup>20.3センチ</sup>。半葉九行。漢字カタカナ交じり文。全三十七丁。内容は「縁起第五」。縦帳。おもて表紙に貼り紙一枚および短冊一枚、裏表紙に貼り紙一枚あり。表の貼り紙には明治十一年に本書を奉納した由が記載され、裏の貼り紙にはテキスト本文の末尾部分が記載されている。

#### 【注】

- （1）井原今朝男「神社史料の諸問題―諏訪神社関係史料を中心に―」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第一四八集、二〇〇八年十二月）。

- （2）直近における『諏訪大明神画詞』の伝本を紹介した研究成果としては、間枝遼太郎氏「叡山文庫天海蔵『諏訪大明神画詞』解題・翻刻（上）」（『北海道大学大学院文学院 研究論集』第二十号（二〇二一年三月掲載予定））がある。

#### 【付記】

貴重な資料の閲覧・紹介を許可して下さった諏訪市博物館にお礼申し上げます。

なお、本稿はJSPS科研費JP20K00291（研究代表者：二本松康宏）による研究成果の一部である。

#### 【凡例】

- 一 本文は原文通りを原則としたが、一部通行の字体に改めたところもある。
- 一 反復記号「く」「ゝ」はそのまま表記したが、「ゝ」が漢字に用いられている場合のみ、「々」に改めた。
- 一 明らかな誤記・誤写と見られる箇所には原則（ママ）という形で右横に示し、そのうちの一部には同じく右横に（≒本来使用されるべき文字≒カ）という形で表記した。
- 一 虫喰いなどで判別ができない文字は□で示した。
- 一 ■は、底本で塗りつぶされているため判読できない文字である。
- 一 改行については／で表記した。改丁については「を」をもって示し、（一オ）のように丁数ならびに表裏を表記した。

一 朱書きの文字については当該部分の頭に（朱）と注記した。  
 一 文中、本来は「着」を使用すべき文字の多くが「著」とされているが、いずれも特に注記せずに「著」のまま翻字した。

## 【本文】

### ① 『諏方大明神畫詞』

諏方大明神畫詞／一卷縁起上 繪 中務少輔隆盛／詞 奥序 近衛右大臣兼章  
宮内卿行忠朝臣

夫日本信州ニ一ノ靈祠アリ諏方大明神是也神降／リノ由来其儀遠矣竊  
 ニ國史ノ所説ヲ見ルニ／奮事本記云／天照大神命シテ經津主聰州神武

出雲日ノ御崎神也

甕

槌

／神ニ柱神ヲ出雲國エ降奉大己貴ノ 靈州若菜和  
州三輪同命ニ／問テ曰ク

葦原ノ中津国者我カ御子ノ知ルヘキ国（一オ）也汝ヲ將ニ此國ヲモ

ツテ天神ニ奉ランヤ大己貴命ノ／申サク我カ子事代主ノ 攝州長田社  
神祇官第六神ニ問フ

テ返事ヲ／申サント申シ事代主ノ神申サク我カ又宜ク將ニ去リ／奉

（父カ）

／方

ルヘシ我レ違フヘカラスト申亦申スヘキ子アリヤ／亦我子建御名方

神千引石ヲ手末ニ捧来／テ申サク誰ソ我國ニ來テ忍テカク云フハシカ

ウシテ力クラ／ヘセント思フ先ッ其御手ヲ取テ即氷ヲ成シ立テ亦／劔

ヲ取来科野国洲羽ノ海ニ至時建御名方ノ神／申サク我ト此國ヲ除テ他処

ニ行カスト云フ是則垂跡ノ（一ウ）本縁也自爾以降靈場ヲ示テ瑞籬

○明

ヲ押シ開給テ承／和ノ。時爵一級ヲ奉リ給シヨリ寛平天慶ニ至リテ既ニ

／極位ヲ授ラレマシ／キ去レハ國內ノ大神トシテ案上ノ禮／賛是儼

重也王城擁護ノ誓願ノミニアラス武關鎮守ノ靈驗有ルカ故ニ上下盡

敬ノ誠ヲイタシ夏夷尊崇ノ／志ヲ同クス暫ク畫圖ノ功ヲカリテ聊奇特

○圖

繪モ及ス當社明神

ノ化現ハ仁皇十五代神功皇后元年<sup>辛巳</sup>事也同年三月神發向（二オ）有  
 テ皇后松浦縣ニ至リ給フ官軍ハ纔ニ三百七十余人ノ乗船四拾八艘也異  
 敵ハ既ニ五十萬人乗船十萬八千艘ト／聞ユ千萬倍カ一也力ヲ以テアラ  
 ソフヘカラストテ先ッ誓約御／占有髮ヲ浮ヘ給ヘハ唯ニツ二分テ亦細針  
 ヲ浪ニ投給／ヘハ則チ鯁<sup>アユ</sup>ヲ釣得給フ吉兆祈ル如シ亦虚空ヨリ／海上  
 ニ両將化現ス各一劔ヲ横タヘテ衆箭ヲ肩フ 此時ヨリ  
弓矢ノメテ定マレリ凡甲冑ヲ帶  
 スル勢氣力ノ長タル其ノイサメル顔／色鬼神ノ如シ其ノ怒ルマナシリ  
 明星ニ似タリ仍テ棟梁ノ／臣武内宿祢奏聞ヲ經テ其故ヲ問給君他ノ州ヘ  
 發向（二ウ）ノ間天照大神ノ詔勅ニ依テ諏方住吉ニ神守護ノ為ニ／  
 現スト答給フ皇后大ニ喜ヒ即錦座ヲ兩神ニアタヘ靈膳／ヲ花船ニソナ  
 ヘ雲帆ニ幣帛ヲサヘケテ歸敬ニ心ナシ其中エ亦ノ妖艶ノ媚タル有高知  
 尾豊姫ト号ス螻羽一箭ノ上ニ坐シ／ナカラ鳳綸ヲ書テ竜宮ヘ遣ス海主  
 大ニ驚テ勅命ニ應／シ。満干ノ兩珠ヲサヘク御願成就ノ瑞相嚴重ノ由  
 君臣ノ共欣悦ス／繪有之／サテ同。月新羅<sup>○ナ</sup>エ御發向ノ時孕メル子ニ私  
 ニ言含（三オ）給ハテ暫ク出生ヲトヘメンカタメニ白石ヲ御裳ニハ  
 サミマスラオノ／兒有既ニ黄金ノ甲冑ヲメシ錦ノ旗玉蓋ヲサヘセテ龍  
 ノ頭鷄首ノ御船ニメス此時神兵雲霞ノ如ク化現ス／亦神樂ノ歌舞ニ應  
 シテ龍宮ノ船頭安曇磯良丸ノ淨衣ヲ着テ鼓ヲ頸ニカク靈龜ニノリテ參  
 向シテ御舟ヲ／コク數艘ノ兵船四方ヲカコミ奉リテ諏方住吉ニ神穀葉  
 ノ松枝ノ旗ヲアケテ先陣ニ進ミ給ヘハ 群島鷹島  
鷲島口虚空ニ飛／カケリ大魚波ニ  
 浮ヒ出テ兵船ヲ守テ忽ニ異域ニ至船師ノ海ニミチ旌旗日ニ曜キ地祇振  
 動シ鐘鼓鳴動シテ山川（三ウ）悉振ヘハ兩神旗ヲヒルカヘス事稻麻  
 ニ似タリ先干珠ヲナクレハ瀟／溟皆ヒカタトナル異賊恍レテ陸地ニト

リアカリテ戦ヲ致セハ官軍ノ弥勝ニノル其後亦満珠ヲナクレハ凶賊皆海底ニ沈ム刺鹽ノサシノホリテ新羅海内トナル一天闇々トシテ日月光ヲカクノス神風戦々トシテ官軍又色ヲマス新羅王ノ云是唯ノ事ニアラス海東ニ國アリ日本ト云聖主アリ天皇ト号スノ其ノ國ノ神兵ナリ兵ヲ挙ケテ防クヘカラストテ彼ノ王自ラノ面縛シテ歸降ス亦士卒圖籍宝貨ヲ捧テ皇船ノ前ニ蹲踞スシカノミナラス毎年ノ朝貢怠ナク本朝ノ」(四オ)皇化ニ随フヘキ由頭ヲタヒテネンコロニ誓ヲナス是レヲ則見聞ノシテ高麗百濟ノ二王未タ戦ハサルニ歸伏ス誓約ノ趣前ノノ如シ亦三韓ノ中間ニ寬嚴山ニ五丈ノ黒キ巖アリ高ノ良大明神御弓ノハスニテ碑文ヲ<sup>三韓王氏日書給フ神変ノ不思儀ナレハ入木ノ勢未<sup>タ</sup>消トカヤ三韓悉ク平ケテ同十ノ二月皇后御歸洛ノ後筑紫ノ蚊田ニテ應神天皇降誕ノシ玉フ八幡大神是ナリ皇道之太平ハ諸神一同ノ守護ノ也ト云ヘトモ異賊征伐専當社ノ靈驗也其旨具ニ二神ノ訖記<sup>江浦御記</sup>並ニ高良ノ縁起等ニ見タリ」(四ウ)繪有之ノサレハ皇后御歸朝ノ後攝州廣田ノ神社ニ鎮座ノ時ノ五社ヲ建立セラル所謂本社<sup>后皇神應神</sup>八幡大神諏方住ノ吉ニ神及八祖<sup>后神持等</sup>宮是也就中毎年正月九日村民ノ門戸ヲ閉出入ヲヤメテ諏方社御狩ト号シテ山林ニ望テ狩獵ヲ致ス猪鹿一ヲ得<sup>〇</sup>。レハ則殺生ヲヤメ西宮ノ南宮ノ<sup>ニ本地善賢■善薩十羅刹等安住ス</sup>タムケ奉ル禮賛今断絶セス一ケノ諦員外ノ宮ノ生贄本誓ニタカハス八幡大神諏方住吉同躰ノ由ノ来有ト申此謂ナリ又用明天皇御宇聖德太子蘇」(五オ)我馬子大臣ニ仰セテ今ノ先代奮事本紀十冊ヲ撰セラノル第三冊ニハ專當社明神ノ本縁分明也ノ繪有之ノ持統天皇五<sup>年</sup>八月一日勅使ヲ祭遣シテ信州須波水内ノ神樂ヲ祭ル由日本記三十冊ニ載タリ是則當社祭禮ノ始ナルヲヤ今ニ至ルマテ當日ヲ月朔神事</sup>

ノ最要トスノ繪有之ノ桓武天皇ノ御子開成皇子ト申人ヲハシマシキ忽ニ世事ノヲナケステ、偏ニ菩提ヲ願ヒ給フ天平神護元年正月」(五ウ)紫雲ノタナヒク処ヲ尋テ攝州勝尾寺ニヨチ登テ本願善仲善ノ等<sup>字出生行兩儀見本傳</sup>上人ニ随テ出家受戒ヲトケ給フテ開成ト号ノス登山ノ最初ニ聖禮鑑ヲクタリテ皇子密語流涕ス奮ノ識ニ遇コトシ皇子者日本有五知ヲ語シ法雷ヲ五種ニ振ノリ給フヘシト印請ス亦二聖兼テ金字大般若經書寫ノ願ノ有テ表カ白ノ日曇リ雨俄カニ起テ霹靂忽ニクタル則其地ヲノエラヒ玉フ最勝峯是亦夢中ニ大<sup>タ</sup>董牛常行通スト見ルノ処ニ紙麻ヲ植ユテ曰ク壁上ニ納ヲハリ禽獸ニフマセス年月ノツモリテ紺紙終ニナル開成ニ授テ神護慶雲二三各」(六オ)年ニ兩聖肉身ヲアラタメス草座ニ乗テ西天ニ飛行ス不ノ思儀ナリ事アリノ繪有之ノ皇子先師ノ願ヲ果サントテ金泥淨水ヲ求給ヒシニノ二七日祈誓ヲ切ニ答テ五更ニ靈夢ノ告有テ容儀並ヒナクノ衣冠タヒシキ貴人來テ石壇ニ坐シテ金丸<sup>長輪</sup>ヲ青キノ錦ニツミテ獻ス拜領シテ其ノ号ヲ問給ヘハ偈<sup>ゲ</sup>頌<sup>ショウ</sup>アリノ得道來不動法姓示八正垂權迹皆得解脱苦衆生ノ故号八幡大菩薩ト云々其後亦夢中ニカタチ夜叉ノ如」(六ウ)クシテ北方ヨリ飛來テ小陶器ニ水ヲ獻ストテ吾ハ信濃國ノ諏方南宮也八幡大菩薩ノ嚴詔ニヨリテ白鷺池水ヲ汲ノテ來ル也ト稱ス彼水池ハ十六會ノ其一也大菩薩教ノ勅モ故有ヲヤ夢サメテ傍ヲ見レハ金丸ハ机ノ上ニ在リ硯ノ水ハ陶器ニ三ツ金水祈り得テ彼ノ桂ノ木ノ洞ニコモリ居ノテ寶■龜元年正月八日ニ筆ヲ立同六年七月ニ書功終ノニ畢メ六ヶ年ノ間ニ一部六百卷書寫シ給シニ金水ノ共ニ無盡無餘也冥衆感應權者ノ奇特筆モ及ヒカノタシ」(七オ)繪有之ノ皇子寫經中ニ魔障ノ靈夢有リ八面八臂ノ惡鬼數千ノ眷屬ヲ引率シテ手

コトニ紺紙ヲ持チテ山林ニ引チラス／ト也荒神ノシワサ也ト知リテ祭  
 ランムトスルニ才覺ナシ樹上／ニ鳥ニツ来テ口ヨリ書ヲ落ス披見スル  
 ハ祭文祭祀等ナリ／兩通ノ指南ヲ以テ八種ノ禮賛ヲ備ヘテ如在ノ祭禮  
 ヲ致サル／荒神供ニ云フ事此時ハシマレリ修繕ノ魔障ハ權化ノ人モ犯  
 ノノカレス末代ノ凡夫能慎ムヘシ退屈スヘカラサルヤサレトモ靈神ノ  
 ノ加護アレハ皇子御願成就ス終ニ寫經六百軸ニ佛舍利（七ウ）并佛菩  
 薩十六羅漢十六善神法諦常諦梵天皇等像／及鈴杵メ闕伽ノ具ヲ相副テ  
 六角ノ淨場ニ奉納供養ヲ申／深ク是ヲ埋ミテ慈尊ノ出世ヲ期ス仍弥勒  
 寺ト号ス其砌ノ惣社ヲ建立シテ八幡大菩薩地主權現金剛藏主諏方南。等ヲ／  
 勸請シテ護法神ト定ム今ニ三ヶ所權現ト号ス寶龜九ノ年八月十一日皇  
 子手ツカラ祭り始メ玉ヒシヨリ此方正八ノ月祭禮イマタ断絶セス凡彼  
 皇子一生修行ノ次第天ノ應八機奇特等三善為康拾遺往生傳ニ具也其後  
 ノ數代ヲヘテ水尾天皇臨幸ノ時勝尾寺ト改号スト同傳ニ（八オ）見  
 タリ般若ノ法味ヲ神明納。シ玉ヒシ事如此／繪有之／諏方縁起中 繪  
 隆盛ノ詞 圓滿院二品親王御筆ノ桓武天皇御宇東夷安倍高丸暴惡ノ  
 時將軍坂上田ノ村丸延暦二十辛巳年二月勅ヲ奉テ追討ノ為ニ山道ヲヘ  
 テノ奥州ニ下向是則征夷大將軍ノ始メ也心中ニ祈願アリ／傳聞ク諏方  
 大明神ハ東關第一ノ軍神也東夷追討ノ為鳳ノ詔ヲカフリテ遠境ニ向フ  
 神力ニ有ラスハ賊衆ヲ誅シカタシ神鑒（八ウ）ヲタレテ所願ヲ成就  
 シ玉ヘト祈誓シテ信州ニ至リ玉ヒシ時伊ノ那郡ト諏方郡トノ堺ヒ大田  
 切ト云フ處ニテ先一騎ノ兵客參／會ス穀ノ葉ノ藍摺ノ水干ヲキテ鷹ノ  
 羽ノ篋矢ヲ負ヒ葦毛ナルノ馬ニ乗タリ將軍誰人ソト問ヒ玉フ當国住人  
 也殊ニ宦仕ノ志有テ參向スト兵客答フ唯人ニアラスト將軍思ヒ玉ヒ

テ則先ノ陣トシテハル／／奥州ヘ趣給フ其間山川所々ニテ眷属多ク化  
 ノ現ス官軍ミ■異ノ思ヒヲナシイサミアヒケリ／繪有之ノ將軍既ニ  
 奥州ノ堺ニ入テ敵陣ニ向ヒ竊ニ彼高丸城岩屋（九オ）内ヲ伺ヒ見給ヘ  
 ハ後ハ碧巖ニヨリ前ハ蒼海ニ向ヒタリ左右ノハ鐵石キヒシク閉チテ人  
 馬更ニ通カタシ高丸彼ノ城ニ閉籠ノテ軍亦出門セス官軍進退極リ秘計  
 述ヲ失フ依テ信ノ州ノ兵客ニ事ノ由ヲ談玉フ兵客此間聊敵陣密通ノ子  
 ノ細有テ陣内ヲ出テ城門ニ向フ官軍一面ニ是ヲミレハ馬ノニ鞭打テ海  
 上ニ進ム時ニ分身シテ忽ニ五騎射手出現ス其ノ行粧何モ々一様ナレハ  
 主伴更ニミエワカス亦黃衣ノ輩二十ノ余人化現シテ各的ヲ捧テ海上ニ  
 走セケル兩方ノ兵不思議ノ思ヲナシテ騷動シ立テ是レヲミレハ  
 流鏑馬ノ射禮也其（九ウ）内ノコイタレ手挾三々九八的等五ヶ処ニ  
 シテ是レヲ射ル今ノ世マテ三ッ的ノ秘事作り物ナントハイヘル事は  
 レヲ始メトス人ノ馬波レヲ踏ミテ沈マス海上平ニハシル諏方ノ二字ヲ  
 趨波トカキケル者此時ヨリノ事也高丸怖畏ノ思ヲナシテ見ニモ出テ  
 サリケルヲ城中ノ男女一同ニスハメケレハ先鐵城ノ門戸ニノソミテ  
 一ノ二三ノ的ハタマトナリテ後矢數ツキヌト心得テ頭ヲサシ出シテノ  
 見ケルヲ手挾ノカフラハ本ヨリ御手ニノコリタリケレハツト射入給ヒ  
 ノケルニアヤマタス雁股ノ矢サキニツノ眼ニタチテ腦ヲ通リタリケレ  
 ハ倒ニ海ヘヲチヌ其時黃衣ノ化人等集リ頭ヲトリテ兵客ニ奉ル鉦  
 （十オ）ノ先ニツラヌキテサシカケ玉ヒケレハ官軍一同ニ勝鬨ヲツク  
 リ其聲天ノニモヒハクラント覺タリ高丸カ伴類是レヲ見テ怖畏ノアマ  
 リ聲ノヲアケ手ツカネテ歸降ス亦須叟ノ間ニ城郭クツレウス神ノ變不  
 思議ナレバ將軍涙ヲナカシテ神威ヲ仰玉ヒ士卒掌ヲ合テ渴ノ仰ス分身

五騎<sup>(ハカ)</sup>八十三屬ノ王子黄衣ノ雅樂ハ同眷属也今ノニ至ルマテ祝ノ的立雅樂ノ処役此例ナルトカヤノ繪有之ノ安倍高丸カ賊首ヲ鉾ニツラヌキテ神兵亦田村將軍ノ先陣ヲウケテ歸降ス程ナク信濃國佐久郡ト諏方郡トノ堺ニ至ルヲホトマ<sup>(十ウ)</sup>リト号ス彼處ニ於テ神兵亦神變ヲ施シ玉フ例ノ葦毛馬地ノ上一ノ丈ハカリアカリ装束冠帶ニ改リテ我是諏方明神也王威ヲ守ノランカ為ニ將軍ニ隨逐ス今既ニ賊首ヲ奉リ今更ニ上洛ニ及ハス此ノ砌ニ留マル可シ亦遊興與ノ中ニ畋獵殊ニ。■<sup>○</sup>心スル処ナリト將軍申ノテ云神兵ハ是得道ノ人也何ソ殺生ノ罪業ヲ好ミ王<sup>(玉カ)</sup>フヤ明ノ神答給ハク儉蕩ニ邪忌<sup>郡</sup>群萌<sup>一</sup>為レ利ニ殺生之猪鹿一ノ於ニ真如之境ニ棲ニ山海之邊ニ也トテ一卷記文<sup>今者号記</sup>出シ給ノテカキケスヤウニウセ玉フ將軍是ヲ拜見シテ感涙ヲ押ヘ信力ヲノコラシテ歸京ノ後天廳ニ達シ宣旨ヲ下サレテ諏方郡ノ田畠<sup>(十一オ)</sup>山野各千町毎年作ル稻八万四千束彼神事要脚ニアノテオカル其レヨリ以來一年中七十餘日神事<sup>續付頭役持</sup>并ニノ百余箇度ノ饗膳今ニ退轉ナシ是則彼ノ將軍奏達ノ故也ノ繪有之ノ寅申ノ支<sup>(千支カ)</sup>ニ當社造宮有リ一國ノ貢税永代ノ課役桓ノ武ノ御宇ニ始レリ但遷宮ノ法則諸社ニハコトナリモトヨリ古ノ新ニ社相並テ斷絶セス仍テ假殿ノ煩ナシ先年<sup>寅</sup>造替ノノ新社ハ七廻ノ星霜ヲフレハ天水之レヲ洗ヒ降露カハク事ナシ當ノ社奇特ノ随一也自潔齊シテ今度<sup>歲申</sup>遷宮ヲナシ奉ル其時<sup>(十一ウ)</sup>古社ハ又新造ノ後七年送リテ神座又七年ヲフレハ前後支ノ千一禊<sup>(千支カ)</sup>十三年ニ當テ徹却ス其跡ニ亦新造ヲ造替シテ來ノ寅ノ歲ヲマツカクノコトク輪轉ス是則兩社同末社一同ノ儀ナリサレノハ後年曆ニ當レハ初春ヨリ國司ノ目代巡役ノ官人ヲ大行ノ事ニ差シ定メ御符ヲキリ國中ノ要路ニ關ヲスヘテ神用ノ分配

ス一國ノ人民諸道ノ工匠ヲ集メテ經營ス氏人并國中ノ貴賤人屋ノ當作ヲナサ■ス斷材ヲ他國ヘ出サス數十本ノ御ノ柱上下ノ大木一本則一二千人ノ力ニテ採用ス加之元服婚嫁ノノ禮其以是ヲトム違犯ノ者ハ必神罰ヲカウフル垂迹已來越<sup>(十二オ)</sup>年ノ例ナシ年内必造畢ヲトテ<sup>ケ</sup>覆勘トイフ啓白ヲ申事也ノ繪有之ノ嵯峨天皇ハ當社明神ノ狩獵ノ事聊叡旨ニカハリタリケルニノ弘仁三年春ノ比御靈夢アリ彼社カト覺シキ処ニ臨幸ナルノ社司ノ指圖ニ任セテ御覽スレハ魚肉ヲ多クイカキノ外ニカケタリ上ニノ諏訪大明神トカキタル金字ノ札ヲ亦カケ並タリ本誓悲願御ノ疑ナクシテ御信仰深カリケルトカヤ凡仁明天皇御宇承和九ノ年始テ五品ノ爵ヲ授ケラレテ後文德清和兩朝嘉祥貞ノ觀ノ聖曆ニハ別勅ヲ當社ニ下サレテ二品三品ノ崇班ニ叙シ朱<sup>(十二ウ)</sup>雀白川御宇天慶永保ノ明時ニハ亦綸言ヲ天下ニクタノサレテ一階ヲ諸神ニ授ラレシ當社正一位ニ叙セラル此條々國ノ史ノ所見分明也■仍正一位法性南宮大明神ト号ス代ノ々聖主叡信左右ニ及サルヲヤ文治已來亦東關ノ進上ノ地ノトシテ武宗敬他ニ異ナレハ末代ニナリテモ靈驗弥揭焉也ノ繪有也ノ傳教大師弘仁六年ノ秋本願ニモヨフサレテ東国ニ向ヒ功德ヲ修ノシ給ヒシニ二千部ノ法華經ヲ寫シテ上野<sup>淨土院</sup>下野大慈院兩箇ニノ塔ヲ建テ各八千卷ヲ納長日ノ長講ヲ始ラル亦當國ノ大德<sup>(十三オ)</sup>服膺シ師資ノ儀ヲナシ法華ヲ弘ラレシ時信濃國大山寺ノ正ノ智禪師上野國ノ千部經ノ智識ニ預リテ二百部ヲ助寫シテ送ラントノスル刻一槽ニ七馬有テ物クハス動カス寂默シテ眠カ如也カケテ信ノ宿ヲフル処ニ諏方大明神詔宣シテ我コノ千部經ノ智識ニ預ラントメ此怪ヲ示スト<sup>云</sup>則明神千部經ノ智識ニ預給テ後七ノ馬ノ本ノ如クニシテ羸疲セズトミ

エタリ此事傳教大師傳并祖師行業ノ記ニ師範大ノセラレタルヲ尊神大師値遇法華經結縁ニコトノナリシ御事タリノ繪有之」(十三ウ)淳和天皇ノ御宇天長十年ノ比慈覺大師大蘇山ノノ古風ヲ傳ニ楞嚴院ノ幽洞ニシテ如法如説ノ儀ノ則ヲトヘテ三年ノ星曆ヲ送一(乗カ)垂ノ寫經ヲイタシ玉イノシニ山路往復ノ淨侶水紙ヲ迎送シ樵夫禽獸異ノ類禪宗ニ徘徊ノ外音信ナキ處ニ諏訪明神霧中ノニ影向有テ此法ヲ守給キ則良正阿闍利ヲ勸請三十ノ番神ニ連子奉テ今世ニモ傳レリサレハ當社ニハ本地普ノ賢大士ヲ安置シ如法寫經ノクワン修最中系(不カ)斷勤行ニスノトナリ」(十四オ)繪有之ノ大原ノ本願良忍上人ハ叡山ノ學侶顯密碩德也尚隱ノ遁修禪ノ願有テ一千日間無動寺ニ參籠シ二十三歳ニシテノ終ニ三千ノ交衆ヲ辞シ一字ノ草菴ヲ結テ大原ノ別處ニ籠ノ居シテ二十四ケ年カ間常座三昧ニ入り畫水ノ觀念ヲコラスサレハ他心通ナントモ有ケルヤラン不思議多カリケリ崇徳院ノノ御宇上人四十六歳ノ時行化ノ中ニ彌陀ノ示誨ヲ蒙テ始テシユ洛ニ出ツ天治元年甲辰六月九日ヨリ融通念佛ノ勸進ノヲ致ス上一人ヨリ下萬民ニ至ルマテ普ク此名帳ニ入ケリアル時」(十四ウ)青衣ノ僧庵室ノ前ニ化現シテ自ラ名帳ヲ書忽然トシテ形ヲカクス披見ノ處ニ鞍馬寺ノ毘沙門天皇ノ影向ト見ノタリノ繪有之ノ天永元年四月四日上人彼寺ヘ詣テ終夜念佛ス寅ノ一點ノ天皇亦現シテ上人ニ謁シテノ玉ハク先日名帳ニ入テ後汝ヲ護ノル事影形ニ随カ如シ此名帳ヲ本帳ニ加ヘテ上人ノ前ニ差シノ置セ玉ヘリ四神夢ノ覺ルカ如シテ眠前ニ一卷ノ書アリ披見スレハ梵釋四王ヲ初テ日月星宿諸天善神龍王八部并本朝」(十五オ)大小諸神ニ至マテ書連タリ文字歴然也其中四十番ニ當テノ廣田西宮諏方南宮部類眷屬各百反ト

載ラレタリ正毘沙門天王ノ授ト良忠上人所得ノ事也ケリ彼上人一生ノ行儀ノ終焉奇特委ハ大原ノ傳記ニ見タリ當社ハ佛法值遇靈ノ神芳類無キヲヤノ繪有之延文元年丙申十一月廿八日ノ同縁起第三繪隆盛ノ詞青蓮院一品■尊道御筆ノ白河院之御宇大祝神ノ爲信号神太夫數日ニ長男神太爲」(十五ウ)仲ヲ當神職ニ立社務ヲ執行シケルニ八幡太郎義家ノ誘ノ引ニヨリテ上洛ノ企有リ當職ノ仁郡内ヲ出サルモ垂跡ノ已来ノ流例ナリ然ルヘカラサル由父爲信シキリニ教訓ヲノ加ト云ヘトモ承引セス既ニ約諾ノ上ハ今サラ改変ニ及ハノストテ上洛シケルニ一ノ鳥居ノ前ヨリ始テ引馬共病臥テ郡ノノ境大田切ニ至マテ七匹斃レケレハ一族從人ナヲ諷諫ストイヘトモ父ノ命ニ随シテ宮中ヲ出ス誰人ノ教ニカ留マルヘキノ若神慮ニ背カハ我身命終ルヘシトテ登ケリ生者必滅ノ業報シカラシムト云ヘトモ和光利物ノ方便ナヲハカリカタキ物」(十六オ)ヲヤノ繪有之ノサテ美濃國筵田庄芝原ト云處ニ至ル新羅三郎義光刑ノ部ト号ス招請シテ酒宴アリケリ雙六ヲウチケルニ不慮ニ賽ノ論出来テ忽ニ鬪殺ニ及ヒ兩方多ク爰亡シ疵ヲカフムル者數ヲノ知ス寶主ノ諍ナレハ爲仲ハ理ヲ得スシテ遂ニ自害シ侍ケリ臨ノ時ノ災難偏ニ神罰ノ致ス處也弘仁神祇格ヲ見ル掃レ社敬ノレ神銷レ禍致レ福今聞ク神宮司等一任ニ終身侮黷ニ不レ敬崇ノ咎屢臻宜ニ自今已後簡擇一ス彼氏之中潔清廉貞堪三」(十六ウ)神主ニ者補任限以ニ六年一相替云當職者生得譜代ナレハ誠ニ任ノ限ノサタニ及ハス然ラハ弥旬日ノ神事ヲ專ニシテ朝夕ノ進退ヲノ慎ヘキニ適神牀ノ号ニホコリテ重禁ヲモ犯シ父ノ命ヲモ背キケルノハ不思議ノ事也若亦末代後昆ノ禁ニヤ有ケン神慮ヲホツノカナシノ繪有之ノ京都ニハ八幡太郎折節豫州ノ禪門ノ前

ニテ佛事聽聞有ケル処へ此事聞ヘケレハ驚テ坐ヲ立ツ顔色忽ニカハリ大ニ噴<sup>噴</sup>忿ヲ／發スル軀也眉毛マツ毛ミナ逆立ス豫州禪門見驚テ使者ヲ（十七才）立テ事ノ子細ヲ尋ラルル処ニ義光カ爲ニ爲仲ヲ討セサセス生涯ノ遺恨也其迹救ハスハ後進ノ勇士豈我ヲタノマンヤ早く農州ニ／下向シテ義光カ所存ヲ相尋ヘシト申サレケレハ當座臨時喧嘩ノ兼イ日ノ宿意ニ有スアエテ其恨ヲ残スヘカラス然レトモ所當ノ罪科ノ速ニ糾行スヘシ兄弟ノ確執ハ他人ノ嘲哂也暫イキトヨリヤム／ヘキヨシ再往諷諫ノ間義家力及ハス數輩ノ下手人ヲ誅シ彼ノ地ヲ神領ニ付ケラル爲仲カ子息ノ神五郎爲盛子孫多ト／云ヘトモ神職ヲツカス神慮尤恐ヘシ其後爲仲カ弟爲繼<sup>為信</sup>／當職ニ立ツ三日ヘテ頓死亦其弟爲次三男ヲ立ツ七ケ日ニテ死ス（十七ウ）當社三日祝七日祝ト号スルハ則此事也父祖タリトイヘ／トモ讓補自專セサル謂也仍四男爲貞ヲ立ツ當職相ノ傳神慮納受餘胤十余代ト云ニ相續ス當家ノ輩長ノ子ノ外四男ヲ賞玩翫スト云ハ則此例也神職ノヤムコトナキノ凡慮ノ及フ処ニ有サルヘシ／繪有之／下宮祝金刺盛澄弓馬ノ藝能古今比類ナシ神ニ通シ／ケルニヤ異朝ノ養由カ迹ヲ學テ柳葉百歩ノ勢百發／百中ノワサ昔ノ傳ヲ見ルカ如シ三々九八の手挾コイタ（十八才）レカト云作り物ハ垂迹ノ神變也如此奇特モ始<sup>下上</sup>射メタリ希ノ代不思儀ノ達人也木曾冠者義仲ヲ聳ニ取テ女子ヒ／トリ出生シテ親子ノ契約アサカラスサレハ壽永二年夏ノ比ノ北國ヘモ相具シテ毎度ノ合戦ニ高名シテ越中ノ阿努ト云處マテ／隨逐シタリケルカ手塚ノ大郎光盛ハ弟ヲ留置テ當社御射山ノ神事ノタメニ歸國シタリケリ義仲誅伐後右幕下<sup>頼朝</sup>イキ／トヨリ深ク彼ノ盛澄ヲ召出シテ梶原平三景時ニ預ケ置テ死刑ニ／定メ關東ノ侍共彼所作

ヲ見ント願事渴ニ臨テ水ヲ求ルカ如シノ景時イカニモシテ申助ケント思テカハ、ル弓矢ノ上手ヲ召シツカハシ候（十八ウ）ハテハ失ハレ候ン事トヲシク覺候ト申ケレハサレハコソソレヲ敵ニナシテ／ヲカン事有マシケレトテ御氣色アシカリケレハ左候ハ、トテモ失セ候ハ／ンスル物ヲ召出シテ藝能ヲ御ランセラレテ切候ハヤト侍共一同ニ申候ナリ／ト申ケレハトテ召出サル諸國ノ侍上下諸人群集見物ス紅ノ水干ニ弓ノ手ノ袖ノ裏ニ日月ヲ出シテ折烏帽子ヲ著シテ參リタリ先八的ノヲ仕ツレト仰ラレテメテノ埒ヲコユルクセ馬ヲ下サル梶原カ命ヲ得テ舍ノ人ヒソカニ此クセヲ授テ渡玉フ盛澄心得テ乗タリ一度モトヲサ、／リケレトモ少モ此クセ見セスシテハタ、ト射テトヨリタリ不思儀ノ事トヲホシメシテ今一度仕ツルヘシト仰下サル的ヲ用意セスト（十九才）申タリケレハ其的ノワレヲ仕レト仰有リ貴命ニ随テ重テ是ヲ射ノルニ一ツモハツレス幕府ヲ始テ諸人感歎セスト云事無シ亦串ヲ仕ノレト仰ラル御氣色ノ趣トテモ助ルヘカラス弓箭ニ疵ヲツケテモ／生涯ノ恨也ト盛澄思ヒ切テ堅ク辞退シ待ケレハ今ハ外<sup>外</sup>レタ／リトモ何カハ苦カルヘキ争カ直ノ仰ヲハ背クヘキ唯仕レト景時アナノカチニ諫ケレハ心中ニ祈念ノ旨有テ奇瑞現前ス仍テカリマタヲノネシマハシテ亦打出串ヲフツノ／ト射切テトホス貴賤上下ノヘメキ／アヘリシバシハドヨミヤマス串ヲ召出シテ御覽スレハ上五寸斗リ切レテ／殘ラズ寸法同シ其時人力ノ及フ処ニ非ス偏ニ神職ノ故也ト（十九ウ）右幕下信仰起リケルニヤ切テケレタカリツル物ヲト三度迄仰ラ／レテツイニ免許有ケル／繪有之／其後當國ヨリ義仲被官ノ族六十餘人同時ニ召シ上セラレタ／リケルヲモ盛澄力重科ナヲ厚■免アリ況ヤ是等ハ皆我等ノカ

徒黨も同ク先非ヲナタメラレハ何ソ後昆ノ勇ヲナサハランカト／ヤサシク申タリ上道理ナリトテ悉ク赦免アリケレハ同道シテ下向／シ待ケリ景時力行迹是程ノ仁徳哉トテ時ノ人一同悦アヘリ是／偏ニ當社ノ神驗カタシケナシト申ケルサレハ諏方下宮上座ノ堂ト」(二十オ)申處ニ景時力墓ヲタテ今ニ及フマテ彼迹ヲトフラフトナン禽獸ニ至／ルマテ恩徳ヲムクフ志アリ何況人倫ヲヤ順逆ノ結縁現當ノ化導本ノ誓誠ニ相應セルニヤ／繪有之／承久二年冬湖水ノ御渡違例セリ見文諸人怪ト思處ニ同／三年五月天下ノ大乱起リ都鄙軍旅ヲ馳ト、ノフ關東ニハ／左京權太夫平ノ義時朝臣諸國ヲ相催ス事アリ信濃國／其專一也神祇ノ一族各相談シテ云當社大祝此ヲ神軀／トシテ崇敬異他ノ重職也仍當職ノ間ハ郡内ヲ出ル事」(二十ウ)ナシ況ヤ他國ヲヤ潔齋嚴重ニシテカツテ人馬ノ血肉ニ觸／レス將來此職相續スヘキ類ハアラカシメ能其身ヲ慎来レリ／保元平治ノ逆亂壽永養和ノ征伐ニモ庶子親類ヲ遣キ／所謂祢津神平貞直千野六郎光弘藤澤次郎清親等／是也今度ハ君臣ノ争ヒ上下ノ鬭ナリ天門測カタシ宜ク直／鑒ヲ仰ヘシトテ時ノ祝敦信大明神宝前ニシテ可否ヲト筮／シケルニ速ニ發向スヘキ神判アリ疑ホトント立ち處ニトケテ長男／小太郎信重ニ一族家人ノ勇士等相副テ發向セシム神氏ノ／正嫡ミツカラ戦場ニノソム事は最初ナルヘシ時ニ宮鳥數百」(二十一オ)前陣ニ飛行ケルヲ見テ士卒皆渴仰ノ思ヲナセリカクテ尾張ノ／葉栗原ニ到ヌレハ其勢三千餘騎也美濃國大井戸ト云處ニ／著ヌ亦此間ニ日ヲフル五月雨ナヲ晴マナクシテ此境ノ大河漲出ニ／ケリ波瀾兩岸ニ溢テ浅深スヘテ弁カタシ向ノ岸ニハ西軍數千／陣ヲ張リヤシリ鏃ヲ調テ待カケタリ軍士暫停立スル處ニ例ノ瑞鳥／千萬翼兵ノ馬前ヲ數

遍飛マハリテ敵陣ノ背後ヲ圍マン／トスル勢ヲナシテクタリ瀨ニ飛渡リケレハ大勢ノ鳥飛ニ随テ同／時ニ河エ打入タリ古老ノ村民イマタ知サル浅瀬也大軍一騎／モヲクレス著岸ス敵軍後ヲタレシト一戦ニ及ス千戈ヲ捨テ乘」(二十一ウ)馬ヲ離テ退散ス是東山道ノ先陳也其ヨリ入洛ノ日ニ到マ／テ度々ノ戦功拔群也シカハ後日ニ義時朝臣書札ヲ敦信／祝ニ送テ勲功ヲ褒美シ神驗ヲ感歎ス委細ノ趣書ニ載ル／ニ及ス彼状今ニ相傳セリトソ聞ユル然間抽賞傍倫ニコエ名譽／當時ニ盛也其後神家ノ輩多ク西國北國ニ居住シ後胤／ナヲ相續セリ是豈彼時恩賞ノ地ナルヘシ凡我神三韓征／伐ノ曩意イマタ忘玉ハサレハ神氏武勲ノ業永世相承テ左／右ニアタハサル者歟／繪有之」(二十二オ)後醍醐院重祚ノ初建武二年八月大乱ノ後大祝賴繼ハ父／祖一族ノ朝敵ニナリテ悉ホロヒテ後宝殿ニテ失フヘキカト從人／等計ケルニ神ノ告有テ當郡内原神野御狩場也ニカクレ居タリケリ境／ヲ越サル重禁アレハ郡内ヲモ出ス進退惟谷テ身ヲカクスニ處ナカ／ソ思ケル當神職ハ一門政賴神澤拜任ス一代モ凡人ニテ叶サルノ事ナリマシテ庶流トシテ既ニ十代ヲヘタリ神慮ニモ背ヘキ由／ユヘ實ノ輩カタフキ申ケレトモ御方ニヲキテモ其仁ナキ間力及／ス勅裁有ケリサレハ柏村宮ニテ祝立先規ヲ執行セントシケルニ／死人現形ス亦清器ニ向ヘハ盤ノ上ヲ踊上テ破裂ス神慮ニ」(二十二ウ)背ケル先表ヲ恐テ猶豫スサレトモ當職居處神號殿遷リ居タリケリ彼在／所ハ山岳ナリ原山ハ目前脚下ナリ賴繼ハ七歳ノ小童ニテ随逐ノ輩／四五人皆壯年ナリ大敵ヲフセキカタシ又朝夕ノ煙火歴然ノ間穴／ヲホリテ火ヲ見セス深厚ニ及テ食ヲマウケテ纔ニ身命ヲ續ケリ亦／當敵ノ黨類事ヲ狩獵ニヨセテ山中ニ充滿シテ是ヲサカス既ニ近付／ク時

ハ自殺ノカマヘヲ致シケリサレトモ霧霞ヘタハリ暗夜ノ如クシテ自隱ノ形ノ術ヲナス亦食盡レハ米豆鹽酢ヲ荷擔シテ雜駄両三匹迷ヒ来ノリテ父母ノ嬰兒ヲ撫育スルニ同シ亦鳥ハ木ニヨリ求サルニトラル鹿ハノ穴ニ入テ自然■神祇ノ供祭ヲ備フ亦山河ノ中ニ水結ヒテ御渡」(二十三才)ノ跡現前ス奇特ノ思ヲ肝ニ銘シテ随喜ノ涙眼ニ浮フカクテ神變ノ不思儀ハ一兩年ニ及フト云ヘトモ朝敵ノ子孫ナレハ救フヘキ人ナク憑ムヘキ方ナシ唯天道ニ向テ徒ニ旬月ヲ送り神慮ヲ仰テヒソカニ祿運ノヲ待ケリノ繪有之ノカ、リケル程ニ思ハサルニ君臣ヲト有テ關東ノ將軍京都ニ責上ルノ由風聞ス雌雄イマタ決セサル処ニ國家ノ安否ハ當社神祇ニヨルヘシノトテ當國守護人小笠原信濃守貞宗甲州守護武田駿河守ノ同三年正月一日武家ノ方人トシテ當郡ニヨセ来ル政頼追落シテ」(二十三才)頼繼ヲトリ出シ本職ニ沙汰シスヘケリ翼日二日御渡有リ舊ノ如クニ遵ノ行ス神官氏人弥渴仰ノ思ヲナシ悦ノ奉幣ヲ捧テ群集ス亦大小ノ神事相續シテヲコタリナシ遂ニ武將ノ合戦利ヲ得テ同日入洛アノリケリ神明ノ奇特諸人ノ美談アヘテ書述ルニ及ハスノ繪有之ノ縁起第四 繪 隆盛ノ詞 圓滿院二品親王御筆ノ後宇多院御宇弘安二年<sup>巳</sup>季夏ノ天當社神事ノ時日ノ中ニ變異有リ大龍雲ニ乗シテ西ニ向フ參詣ノ諸人眼睛ノ及フ」(二十四才) 処ソコハカトナシ雲間殊ニヒハラノ色ヒクノト見ユ一竜カ亦數竜カ首尾ノハ見ヘス何サマニモ神明大身ヲ現シテ本朝最眞ノ力ヲ入レマシマスノ勢也何事ノ先表ナルラント覺束ナシ同御代ノ始文永十一年<sup>甲戌</sup>ノ十月蒙古襲来ノ時尊神御發向ノ故ニ賊船漂倒スル事有ノシカレトモ是程ノ事ハナカリキ此度ハ何ナル事ノ有ヘキヤラント疑ヲナス処ノニ大元ノ將軍夏貴范文庫使等ヲ

襲来テ六百萬艘ノ舟ヲノ和漢中間ノ大洋ニ連續シテ其上ニ大板ヲ敷ツケテ人馬往復ニ道ノ浮橋ヲナサント等數シテ先陳カスノ數萬艘来朝シテ後陳ノツ、クヲマツト聞ユシカルニ同六月廿五日惡風俄ニ吹来テ彼ノ兵」(二十四才) 船或ハ友覆破裂シテ軍船皆沈没ス適船具斷板チルニ取付テ浮ノヒ出ル輩ハ釘カスカイニツラヌカレテ白刃赤肉ヲ切ニコトナラス流ルハ血潮ノ浪ヲソメ死骸海上ニ充滿ス勝載兵具ノ浪ニウカフ事秋ノ木葉ノ水ノ上ヲマフカ如シ希有ニシテ助カル諸將等悉イケ取ニナリテ關東ニ下サレテ遂ニ誅伐セラレヲハンヌサテハ尊神化現ノ御祇ハ本社ヨリ鎮ノ西箱崎ノ社博多ノ津ニテ同時ニ見ヘサセ玉ヒタリケレハ石築ノ地發ノ向ノ軍卒等モ貴ミコトアヒケルト後ニコソ聞エタリケレ亦大洋ニテモ凶ノ賊是ヲ拜見シテ恐怖渴仰シケルカ適ノカレテ歸郷士卒事ノ由ヲノ語傳タリケルトテ元朝常州ノ昆清縣ト云處ニ日本誦方大明」(二十五才) 神ヲ勸請シテ今ニ至マテ嚴重ノ祭禮ヲ致ス也其時ノ奇特ノ已敵國ニ及ヘリ諸神ニモ勝サセ玉ヒケル事ハ疑ナキヲヤ凡我朝ノハ神國ナリ澆季ナリト云ヘトモ神變不思儀言詞翰墨及ヒノカタシ異國是ヨリ恐怖ノ思ヲナシ本朝是ニヨリテ■淳素ノ古ニカノヘル吾神靈德古今如此ノ繪有之ノ當社ノ威神力ハ末代也ト云ヘトモ揭焉ナル事多キ中ニ元亨正ノ中ノ比ヨリ嘉曆年中ニ到ルマテ東夷蜂起シテ奥劔騷乱スノル事有キ蝦夷千島ト云ヘルハ我國ノ東北ニ當テ大海ノ中央」(二十五才) ニ在リ日本唐■子渡黨此二類各三百三十三ノ島ニ郡居セリト一島ノハ渡寫ニ混ス其内ニ宇曾利鶴子列イ別萬等宇滿ニ伊犬ノト云小島トモ有リ此種類ハ多ク奥劔津輕外ノ濱ニ往来交易ノス夷一把ト云ハ六千人也相聚ル時ハ百千把ニ及ヘリ日本唐子ノノ

二類ハ其地外國ニ連テ形骸夜叉ノ如ク変化無窮也人倫ノ禽獸魚肉ヲ食トシテ五コクノ農耕ヲ知ス九譯ヲ重ヌトモ語ノ話ヲ通シカタシ渡黨ハ和國ノ人ニ相類セリ但鬢髮多クシテ遍身ニモ毛ヲ生セリ言語俚野ナリト云トモ大半ハ相通ス此中ニ公超霧ヲナス術ヲ傳フト云遠隱形ノ道ヲ得タル類有リ戰場」(二十六才)ニノソム時ハ丈夫ハ甲冑弓矢ヲ帶シテ前陳ニ進ミ婦人ハ後陣ノニ随テ木ヲ削テ幣帛ノ如クニシテ天ニ向テ誦咒ノ鉢有リ男女ノ共ニ山壑ヲ經過スト云トモ乘馬ヲ用ス其身ノ輕キ事飛鳥ノ走獸ニ同シ彼等カ用ル処ノ箭ハ遺骨ヲ鏃トシテ毒藥ヲヌリノ纒ニ皮膚ニ觸レハ其人斃スト云事ナシ根本ハ酋長モナカリシヲ武家其濫吹ヲ鎮護センタメニ安藤太ト云物ヲ蝦夷ノ管領トス此ハ上古ニ安倍氏惡事ノ高丸ト云ケル勇士ノ後胤也其ノ子ノ孫ニ五郎三郎季久亦太郎季長ト云ハ從父兄弟也嫡庶ノ相論ノ事有テ合戰數年ニ及フ間兩人ヲ関東ニ召テ理非」(二十六ウ)ヲ裁決ノ処彼等カ留主ノ士卒數千ノ夷賊ヲ催集シ外ノ濱内ノ末部西濱折曾ノ城郭ヲ構テ相争フ兩城嶮岨ニヨリテ洪河ヲ隔雌雄タカイニ決シカタ茲ニヨリテ武將大軍ヲ遣テ征伐ストイヘトモ凶徒彌盛ニシテ討手宇津宮ノ家人紀清兩黨ノ輩多ノ以命ヲ落シキ漸ク深雪ノ比ニ及貞任追討ノ昔ノ如ク年序ヲヤノ累ヌト衆人怖畏ヲ致処ニ或夜深更ニ當社寶殿ノ上ヨリ明神ノ大龍ノ形ヲ現シテ黑雲ニ駕シテ良ノ方ヲサシテ向ヒ玉ヒケル諏方ノ郡ノ内山河大地草木湖水皆光明ニ映徹セリ同時ニ奥羽ニ現シ給ヒケルトソ後日ニ注進セシ爰ニ季長カ從人忽城郭ヲ」(二十七才)破却シテ甲ヲヌキ弓ノ弦ヲハツシテ官軍ノ陣ニ降りヌ三軍萬歳ノヲ稱シテ則関東ニ歸ケリ凡神ノ奇特三韓征伐已來延曆桓武ノ御宇ニハ將軍ト身ヲ現シテ官

兵戰功ヲ扶助シ文永弘安ノ皇ノ朝ニハ大竜ト身ヲ顯シテ蒙古ノ強暴ヲ對治ス嘉曆近年亦ノ以カクノコトシ本朝擁護ノ神德異賊降伏ノ靈威影嚮ノ冥応ノ古。日々新ナル者也繪有之ノ後醍醐天皇隱州遷幸ノ後元弘二年八月一日神事ノ最中ノ亦晴天ノ白雲大小ノ段々皆人尊馬ノ形ニ変ス其姿白旗サ」(二十七ウ)シツケタル大軍發スルト覺テ勢數十町ニ及フ化軍ノ多少面然ノ處見ヘ不同也或ハ數千騎或ハ數萬騎ト申アヒケリ當社ヨリ西ノ山ヲコエテ東ニ向テ社壇ノ上ニカ、リテ彼大靈ノ雲散乱ス御射山ノ下向ノ貴賤當國他國ヨリ群集ノ諸人はヲオカシテ奇異ノ思ノヲナス此頃ハ西國擾乱ノ時節ナレハ先例ノ如ナラハ本社ヨリ西ヘノコソ向ハセ玉フヘキニ此怪異吉凶不審也斷簡及ヒカタキ由古老神ノ官氏人申アヒタリケルニ去年ヨリノ兵軍猶ヤマスシテ翌年五月大乱ノヲコリテ都鄙一轉ス不思儀ナリシ事也仍舊記ニ續テ末代ニ傳ヘントス」(二十八才)繪有之ノ當社別宮ノ事雲州杵築和州三輪攝州廣田西宮信濃州ノ南宮等也主伴ノ不同アリト云トモ當社分座ノ儀本記ノ處見ノヘ分明也其外日吉三宮八王子兩社ハ當社上下宮也ト云事ノ語リ傳タリ本地同躰實ニ故有歟委ク述ルニイトマアラス抑本國水内郡善光寺別社ノ事日本記ノ第三十二ハ持統天皇五ノ年遣ニ勅使一祭ニ諏方水内神等一ト見タリ亦延喜神祇式ニハ諏ノ方郡南方刀美神社ニ坐水内郡建御名方田富命彥神別神ノ社ト云ヘリ當社ノ分坐疑ナシ是則當郡善光寺郭内當社也」(二十八ウ)毎夜寅ノ時大明神御入堂有テ陣ノ扉ヲ閉テ諸人三葉シツメテノ法施祈念ス暫アリテモトノ扉キリノト鳴テ開ケテ御出ノ勢有リノ嚴重不思儀ノ事也凡我大明神弘ク德ニ歸シマシマス事諸社ニノ超過シ玉ヘリ然ル間開成皇子般若書寫ノ昔ハ白鷺

池ノ波ヲ／掬シテ硯水ヲ湛ヘ慈覺大師如法寫經ノ時ハ鷲峰ノ風ヲシタ  
 ／ヒテ守護ヲ致ス佛生佛滅ノ令節ニハ蘋蘩蒹藻ノ禮賛ヲ／止メテ梵唄  
 歌讚ノ法會ヲ修シ七月八月ノ齋日ニハ孟蘭養誠ノノ門ヲ表シ殺生慈悲  
 ノ本懷ヲ顯ス是ニヨリテ弥陀三尊ノ靈ノ像ヲ敬テ毎夜ノ影向ヲタレ玉  
 フ神慮コトニ甚深也當■時ニ繼」(二十九才) 鉢天皇御宇善記四年本  
 尊阿弥陀三尊百濟國ヨリ波ニ浮テ／日本攝津國難波ノ津ニ來著シ給フ  
 貴賤全知其後三十七ノ年ヲヘテ欽明天皇十三年佛法傳來ス此時初テ佛  
 像ヲシルナレハ／當寺本尊ハ本朝佛法ノ最始也靈佛靈神寺社一處ニ並  
 ヘ／テ現世當來ノ求願ヲ二世ニミテ給フ當州規模他國ニ卓礫／セルモ  
 ノヲヤ／繪有之／文明四年壬辰夷則上旬於高野山悉地院從一昨日至今  
 日書寫功／畢八日酉刻／權祝綱政」(二十九ウ)

## ② 『諏方大明神畫詞』

諏方大明神畫詞／縁起第五 繪／詞青蓮院一品尊道親王御筆／祢津神  
 平貞直本姓ハ滋野ナリシヲ母ノ胎ヨリ神ノ告有／テ神氏ニ賜テ大祝貞  
 光カ猶子トシテ字ヲ神平トソ云ケル／諏方郡内一庄ノ領主トシテ保元  
 平治ノ戰場ニ向ヒケリ武ノ勇ノ業ノミニアラス東國無雙ノ鷹匠也唯今  
 打ヲロシタル荒ノ鷹等モ多年使入タルカ如クニソ用ヒケルサレハ此道  
 ノ名譽モ／今ニクチセストソ聞エケル或時内神事ニ聊觸穢アリケル故  
 ニヤ」(一オ) 多ノ鷹ノ中ニ秘藏シタル小鷹ヲソラシテ行方ヲシラス  
 ナリヌ両ノ三年ノ間夫婦トモニ旅行ノ事アツテ浅間嵩ノ麓ヲ過ケルニ  
 高ノ天ニ雲ヲシノク飛鳥アリ髣髴トシテ何鳥ノ姿トモ見エス貞ノ直ヨ  
 ク／見ルニ鷹ナラント思フ程ニ妻女乗輿ノ中ヨリノソミテ是ハ／一  
 トトセソレニシ小鷹トヲホユル也ヲイテ見ヨトテヌクメ飼ニ用意シタ

／リケル鳥ノ引足ニ鷹裝束一具副テ輿ヨリヲシ出シタリ貞直此ノヲ取  
 テ野原ヘ打出傳エ喚カケツ、<sup>●</sup>挙ヲ上タリケレハ鷹ハ肩ノヲツクリテ  
 落カハリヌヤカテサシ留テ見レハ疑ナキ其鷹也火中ノ／蓮ヨリモ不思  
 儀ニ華表ノ鶴ヨリモ珍シク覺テ本ニモ越テ」(一ウ) 秘藏シケル此妻  
 室ハ婦人ノ身ナカラ丈夫ノ藝ニモ達シタリケル／中ニ鷹ニワイテハ妙  
 ヲ得タリケルトカヤ其後此鷹ヲハ雲井丸トソ／喚ケルアル知音ワリナ  
 ク係念シケル間力ナク遣シテケリ其後當社／頭役人御贄ノ狩ノタメニ  
 度々處望シケレトモ固辭シテ與ヘサ／リケルヲ神慮ニヤ咎メヲホシ召  
 ケン此鷹ノ主俄カニ兩眼明ヲ失／ヒケリ驚懼テ件ノ鷹ニ神馬ヲ相副テ  
 社家ヘ奉ケリ盲者ノ行ノ末ノフカシクソ覺侍ル／繪有之／正應ノ比當  
 國御家人小諸太郎ト云物當社頭役ノ時下部」(二オ) 下女等隣國上州  
 ニ越テ朝市ヲスキケルニ關東ノ執權貞時朝臣／ノ管領シケ■<sup>ル</sup>果圓<sup>門入道當</sup>  
 護代<sup>國守</sup>從人等牛ヲカイト下女ニワイカケタ／リケル程ニ口論ヲ仕出テ打擲  
 刃傷ニ及ヒケルカ權勢ニホコリテヤカテ／彼下人ヲ誅セントスル處ニ  
 忽眼暗ナリテ犯人ノ首ヲ打ハツス事兩度ノナリ剩大刀ヲ土ニ打立テ三  
 ツニ折タリ實ニ本地千手觀音ニテヲ／ハシマセハ刀尋段々壞ノ誓モ思  
 合テ貴シ／繪有之／國ノ注進ニ就テ鎌倉ニテモ裁斷アル處ニ貞時朝臣  
 靈夢ヲ／感ス大龍評定所ニ現ス左右ノ人ニ故ヲ問フ諏方明神眷屬」(二  
 ウ) 小諸カ方人也トイヘリ合掌シテ其咎ヲ免スヘキヨ■シ夢中ニ祈ノ  
 念ス仍テ重科ヲナタメ終リヌ是則當社ノ頭役人謀反八逆免ノ許ノ先規  
 ナリ然ルヲ彼神役已後果圓カイキトヨリ猶ヤマスシテ／頻ニ訴エ申ス  
 間社家恐怖ノ處ニ則御射山ノ祭庭ニシテ童ノ女ノ詫宣ニ云果圓神威ニ  
 伏セス我神人ニアタ有リ明年五ノ月○<sup>以</sup>前ニ其命ヲ召ヘシ神人恐ヲナス

事ナカレト奇特嚴重也／神詫疑殆ナシ然レトモ權勢ニ恐レテロヲシテ鼻ノ如クナラシム／翌年四月二十八日果圓ヲ被リテ一家皆滅亡ス神罰新ナ／ル事萬人渴仰セスト云事ナシ翰墨ニモ及ヒカタキヤヤ」(三オ)繪有之／相州鎌倉ノ里ニ住ケル男年齡二十斗ナリケルカ傷寒ヲ病テ／絶入シテ半時斗ノ程ニ蘇生シテ語ケルハ虚空ヘトヒテソラヨリ漸／ヲチクタルト思程ニ焰王宮ノ廳庭ニ到テ金鏤ヲ付ラル童子出現／シテ問答セントスルニ後ヨリ淨衣立烏帽子ノ老翁來テ云／此男ハ今年諏方ノ神役人也今度ハ返賜フヘシトテ則彼ノ／鏤ヲ淨衣ノ人手ツカヲトキユルシテ背ヲツカミテ遠クナケアクルト／思テ病席ノ障子ニツヨクアタリテ蘇生セシムト云看病ノ輩不思／議ノ思ヲナシテ則食水ヲスヽム親戚族里ノ友或ハ喜悅ヲ含ミ」(三ウ)或ハ感涙ヲ拭フ其年神役故ナク遂ルノミニアラス年々／歳々參詣ヲコタラス弥佛ニ歸シ法ヲ信スルノ志深シテ偏ニ生來ノノ事ヲイトナム現當ノ處願定テ満足スラン神明ノ擁護實ニ／空シカラサル物也／繪有之／下野國那須郡雲巖禪寺ハ勅諭佛國禪師高峰和尚ノ開山名利ナリ和尚當寺ハ初祖西來ノ的意ヲ弘通セラレ乾元ノ嘉元ノ比信濃國窪寺ト云フ觀空トテ一人ノ沙門アリ不立文字ノ宗風ニ信セス慢心ヲ起シテ宗論ノ為メニヤ境ヲコエ彼ノ寺ノ門」(四オ)前ニ旅宿セシメテ日コトニ參学法戰ス爰ニ一ケノ小蛇有テ此／僧ニ形ノ如ク随逐シテ方丈ニ入時ハ堂下ニ脱レ兩日草鞋ノ上ニ／蟠ル是ヲ守護スル跡ナリ人奇異ノ思ヲナシケルカクテ數月ヲ／送ル程ニ良遂麻谷ニマミエシ機縁ヤ熟シケン忽チニ單傳心印ノ旨ヲ仰信スル意ツキテ衣鉢ヲウケ名字ヲ改メテ和尚ノ小ノ師トナリヌ妙通上座トトソ謂ケル則佛前ニシテ多年所持ノ經ノ教并ニ衣服ヲヤキアケルニ

寺前ノ獨秀峰ニ數百人ノ聲シ／テ一同ニ大ニワライケリ天魔ノ所為ナルベシ」(四ウ)繪有之／其ノ後此僧本處ニ立歸テ草庵ヲ結ヒ獨住シテ履踐ノ工夫ノ年序ヲ送リケリ彼處ノ地頭壇越ノ契シテ歸依宗敬シツヽ子ノ息ノ小童喝食ニナシテ同宿セシム或年檀那諏方ノ祭禮ノ／頭役ニカタリテ潔齋シケリ妻室母喝食產生ノ事アリ神事ノ觸／穢ヤアリケン產婦俄ニ狂乱ノ氣出來テ救療術失ニヨリテ／家主彼妙通ヲ請シテ云此病婦ノ跡匪直事イカテカ試ニ祈／念シ賜ナンヤト云上座年來修學ノ勲修ヲ思出シテ誦咒ノ加持シケレハ當社大明神ノ女人ニ詫シテ種々ノ法文ヲ演／給フ平生無智ノ女性諸宗ノ奧藏ヲ擧揚シテ辨。論説無」(五オ)窮談論時ヲウツセリ其ノ間ノ義理委ク記スルニアタハス明神ノカクノ玉ハク恨ラクハ汝行道ノ我イマタ除スシテ顯密工夫熟シ／シカタキ事ヲト上座神詫ヲ奉テ涕淚悲泣シテ慚愧懺悔／ス靈神アカリ給スレハ產婦本■復シテ師檀共ニ社頭ニ／詣テ賽ノ禮ヲ致シケリ僧ハ七日晝夜參籠シテ大般ノ若經ヲ真讀シケルニ結願ノ夜曉更ニ至テ宝前ノ山麓ノ／岩石ノ上ニ金色ノ神龍化現セリ四鳥通カノ草木土石皆光輝ノヲ發スルカ如シ蛇蛇柔和ノ相好ヲ示シテ兩三度點頭シ玉／フニ渴仰ノ思弥心肝ニ銘ス此瑞唯獨自明ナルノミ余人所不」(五ウ)見也猶七ケ日ヲ延テ兩部ノ讀誦ヲ果シテ無ニ法樂ヲトケ／ニケリ然シテ此僧歳ノ旬月ヲモヘス末後了々ニシテ端座入／滅ス隨遂ノ喝食ヲ佛國禪師ニ申置テ鎌倉ヘ送りケル和／尚我カ小師トシテ妙通喝食トヨハレケルトカヤ今ノ在公此／山和尚是也元國ノ各師ニ遍參シテ本朝大刹ノ持ニイタ／レリ繪有之／嘉元ノ比當國ノ御家人小坂孫三郎盛直重キトカアリ／テ硫黄力島ヘ流サレタリケルカ當社御射山ノ酒室ノ頭役人」(六オ)人也

先規ニ任セテ免除有ルヘキ由愁申シケレトモ其比執權ノ時村朝臣ト越  
 ○<sup>州</sup>前ノ管領宗方確論ノ事アリテ神訴モ空ノカリケル彼妻子悲歎ノア  
 マリニハタシニテ百日當社ニ参詣スノ靈夢有テ神鑑ヲマチケル處ニ同  
 三年四月關東兵乱有ノ時村朝臣ヲハ勇士等聞アヤマリ誅戮シ果又宗方  
 凶害トゾノ聞ベシ然間纔一句ヲ經テ又誅ニ伏シヌ末代也ト云フトモ神  
 罰ノ不思議ナリトテ同八月早船ヲ立ラレテ召返サレ果又當社靈威ノ嚴  
 重ナリシ事也ノ繪有之」(六ウ) 信濃國住人和田隱岐前司繁有當社頭  
 役ノ時流鏑馬ノアノケ馬闕。シテ一族ニ石見入道ト云ケル者ノ黒駿ノ  
 良馬ヲ立テ飼ケルノヲ借用シケルニ古敵ノ宿意有テ借與ニ及ハス是ハ  
 使者ノ詞ノヲタニモ聞入レサリケリ祭禮ノ日ニ當テ此馬俄カニ病腦シ  
 テノ既ニ斃レントシケルカ左右ノ耳忽チニ失ニケリ奇異ノ思ヲナシテ  
 情ノ思案スルニ揚馬ニ借リタリシ事ヲ思出テ神道ニ種々ノヲコタノリ  
 ヲ啓シテ四年付テ本社ノ神馬ニ獻シケレハ病馬立トコロニノ平癒シテ  
 水草ノ念モ本復シケリ兩耳漸出現シケノシトモ本ノ如ニハアラサリケ  
 リ近來當社ニ小耳ト云フ名馬ハ即」(七オ) 是也ノ繪有之ノ元弘二年  
 ノ秋ノ比日中僧一人疲歎ニ乗テ相模入道ノ高時ノ宿處ノ南庭ニ馳入リ  
 館内騒動ス四方ノクキヌキノ連續シテ馬牛ノ通路ナシ。○<sup>ホ</sup>昼夜ノ警固ヒ  
 マナシ唯事ニアラストノテ家人等中門ニ出其ノ故ヲ問ヒケレハ是スワ  
 大明神ノ御ノ使也主人ニ對面スヘシト申ケレハ唐カキノ間ニテ問答ス  
 神託ノトテ謂ヒケレハ代々當家ヲ守リテ久シカリツレトモ運命漸クカ  
 タノムキテ滅亡窮期ニ至レリ神力モ及カタシ明年ノ春夏」(七ウ) ヲ  
 ハスコスヘカラス不便ナリトテ涙ヲ流シテ亦走出ントス狂人カ怨ノ敵  
 カ不審也トテ竹井入道トカヤニ預ケラレケリ夢中ノ人ノ如クノシテ旬

月ヲ送リテ後子細ヲ尋ネケレハ信州伊賀良庄ノノ草庵ニ獨住多年定座  
 久ク侍リキ今度復ノ行程モ覺悟ノ分明ナラスシテ忙然タリ有驗ノ僧ヲ  
 乞ヒ本社ニ籠シメテ例ノノ如ク祈禱アルヘシナト聞エケルニ漸大軍發  
 向都鄙ノ物忝ノ相續シテ其ノ實モナカリケリ翌年ノ五月ニコソ萬人思  
 合セケノレ不思議ナシテ事共也ノ繪有之」(八オ) 澁河ノ某トカヤ當  
 社祭禮ノ頭役ニアタリケル比東寺供僧ニノ年來師檀ノ約ヲナセルアリ  
 鷹ニヨカリヌヘキ犬ヲ飼ヒケルヲノ處望シケレハ罪業ノ因ヲ痛テ他處  
 ニ遣シヌト云テカクシニケリノ彼僧忽ニ靈夢ニ感スル事アリ此犬近ク  
 前ニ來テ悲位<sup>位</sup>ノ愁歎ノ躰ナリイカナル故ナラント思フニ傍ニ黃衣ノ神  
 人兩ノ三輩現シテ示サク此犬善根値遇ノ機<sup>機</sup>縁<sup>縁</sup>アリテ當社大ノ明神逆  
 縁化道既預ラントスルヲ主人ヲロカニシテ<sup>格力</sup>愴惜ノスルニヨリテ涕泣  
 ノ相ヲ顯スト云ト見テ去ヌ此僧隨喜感ノ歎シテ其夜ノ未明檀那方ニ送  
 ツカハサントスルニ件ノ犬階ノ下ニ」(八ウ) 病<sup>病</sup>フシテ起步ニ及ハ  
 ス數日食ヲ斷終ニ斃ニケリ來生ノ果ノイカナリケン覺束ナシ明神慈悲  
 ノ本誓凡慮ノ思量スヘキノニ非ル物ヲヤ此事年序イマタ遠カラス師檀  
 共ニ現在セリノ如此奇特靈異萬物ニ被シメテ勝テ計ヘカラスト云トモ  
 分ノ明ニ聞及フ事ヲノミ書アラハス處也ノ繪有之ノ以上縁起畢縁起本  
 ハ上中下三卷也後日ニ二卷ハ書続入ノ<sup>云々</sup>後之二卷ハ詞青蓮院一品尊道  
 親王筆也<sup>筆</sup>」(九オ) 諏方祭卷第一 春上ノ繪因幡守隆章法師<sup>法名</sup>覺智ノ  
 詞青蓮院二品親王尊圓御筆ノ佛神ノ和益ハ人ノ仰也二世ノ願望是ヲ  
 離テ成就スルノ事ナシ文武ノ才能ハ君ノ用ル處也萬機ノ政務是ニヨラ  
 サノレハ張行スル事アタハス然ルニ佛陀ノ慈悲ハ幽玄ニシテタヤスノ  
 ク顯レカタキ故ニ和光ノ方便ヲマウケ名ヲ神明ニカリテ賞ノ罰ヲ明ニ

シテ信心ヲ催スナカタチヨリトス仲丘五常ノ教禮ノ樂ヲモツテ民ヲ教  
ル道ニ聖人言行及ヒカタシ黃石一卷ノ」(九ウ)書于戈ヲ用テ敵ヲ去  
ルハカリコト當時ノ要樞コヽニ極ルノ是ニヨリテ法報應化ノ外ニ化物  
ヲ神道ニ譲リ王霸ノ中ノニ霸業ハ武命ヲシム誠ニ是神明ノ利生ハ能濁  
世ノ機ニノ叶ヒ武將ノ嚴威ハカタノ、末代ニ德ヲ施ヘシ佛界生界ノ其  
實ハ隔ナキカ故ニ真諦俗諦其理タカハサル物力爰ニ信ノ州諏方大明神  
ハ本地ヲ訪ヘハ普賢大士ノ應作恒順ノ衆生ノ願餘聖ニコエ懺悔滅罪ノ  
益諸凡ニ被ラシム垂迹ノニ付テ異説アリ或ハ他國應生ノ靈或ハ我朝根  
本神ノ舊記ノ異端凡慮ハカリカタシト云ヘトモ舊事本記ノ説ニ」(十  
オ)ヨラハ素盞鳴尊ノ御孫大己貴神ノ第二ノ御子建御名方ノ神ノ是ナ  
リ父兄ノ御心ニ随テ孝順ノ道ヲ顯シ給フ持統天皇ハ勅使ノヲ遣テ祭禮  
ヲ始ラル弘<sup>(仁カ)</sup>一聖主ハ靈夢ヲ感シテ本地ヲ充マシノキノ下ノ宮ハ大  
慈大悲薩埵千手千眼ノ示現也泥梨ニハ極苦ニカハノリ娑婆ニハ無畏テ  
施ス垂迹ハ亦南天ノ國母北極ノ帝妃月氏ノノ雲ヲ出テ日域ノ塵ニ交リ  
玉フ是上下兩社ハ世俗ニ准テ陰陽ノノ儀ヲ表ス亦是定惠ノ法門也凡當  
社明神神德萬事ニノワタルト云トモ殊ニ武勇ヲツカサトリテ武館ヲ衛  
護シ玉フ是ニヨリテ神功皇后異國ヲセメ給フ時ハ數艘ノ兵船ノ雲帆  
ヲアケテ」(十ウ)三韓征伐ノ冥威ヲ振ヒ玉フ田村將軍東夷ヲ罰セシ  
日ハ忽ニノ海上ニ射禮ヲ施シテ長ク軍中ノ兵法ヲ殘ス今ノ三三九八の  
乞ノ垂手挾是ヲ以テ濫觴トス遂ニ安倍高丸ヲ誅シテ一郡奉免ノ勅宣ヲ  
下サル永代ノ祭禮ノ要脚ト定メラル弘安寶曆ニハ尊ノ神ノ御躰ヲ雲竜  
中ニ顯シテ蒙古ノ賊船浪ノ上ニ覆スシカレノハ則君ヲ守リ國ヲタモツ  
計コト我神明ノ利益ニ過タルハ無シ況ヤノ亦神ノ幸一夜ノ奇瑞ハ千萬

重ノ氷道ヲ開キ御狩三日ノ遊獵ノニハ兩三匹ノ蹄貢ヲ致ス奇瑞一ニア  
ラス靈驗是同シ然ル間ノ日祭月記神事ヲコタリナク朝祈暮賽儼禮弥  
新也今年」(十一オ)中ノ行事ヲ勅シテ後昆ノ規範ニ備フ剩丹青ノ功  
ヲカリテ耳ノ目ノ玩トストイフ事然也ノ繪有之ノ正月一日荒玉社若宮  
寶前ヲ拜シテ祝以下ノ神官氏人ノ皆衣服ヲタハシクシテ參詣ス祝ハ神  
明ノ垂迹ノ初御衣ヲ八ノ歳ノ童男ニヌキセ給テ大祝ト稱シ我ニ於テ  
躰ナシ祝ヲ以テノ躰トスト神勅有ケリ是則御衣祝有員神氏始祖也家ノ  
督相續テ今ニ其職ヲカタシケナクス此外ニ祠官スヘテ七十餘輩ノ氏人  
亦數百人也西山キハニハ末社堂塔イラカヲ並ヘテ見テ渡」(十一ウ)  
ル一二ノ鳥居ノ間ニハ騎馬ノ行列次第ヲ守テ連續ス先五ノ官ノ祝<sup>著淨衣</sup>次  
ニ神使六人次ニ大祝<sup>赤帶</sup>後騎ノ氏人僅僕從ノ類齋々タリ主伴行粧巍々  
タリ山道往還ノ貴賤村里郷ノ黨ノ士女市ヲナシテ見物スノ繪有之ノ  
各々下馬ノ後宮中ニ詣ツ社頭ノ躰三所ノ靈檀ヲ構タリノ上檀ハ尊神ノ  
御在處鳥居格子ノミアリ其前ニ香花ノ供ノ養ヲ備フ普賢身相如虚空ト  
モ説普賢法身遍一切トモノ述ルカ故ニ法性無躰ノ實理ヲ顯シ依眞空住  
シ及眞土ヲ示」(十二オ)シ玉フナルヘシ中ノ檀ニハ寶殿經所計也法  
華一乘ノ弘通連併ノ普賢四要勸發ナレハ本地ヲ表スルニ似タリ下檀ハ  
松壩柏城ノ臺ヲ并ヘ拜殿廻廊軒ヲツラネタリ垂迹化義ヲ專ニシテ魚ノ  
肉ノ神膳ヲ此所ニ供ス倩三檀ノ景趣ヲ拜スレハ偏ニ三身ノ相ノ兒<sup>ホウ</sup>ヲカ  
タトレリ誠ニ甚深ナル物也初官以下ノ輩ハ伊豆早社ノヨリ次第ニ巡禮  
シテ内宮ノ壇上ニ到リテ神拜ス亦湖水ヲ隔ノタル遠山ニ下宮ノ薨見エ  
今日ノ神幸思ヤラレテ是ヲ拜ササテノ御手洗河ニカヘテ漁獵ノ儀ヲ表  
ス七尺清瀧氷ニ閉テ一機ノノ白布地ニシケリ雅樂數輩斧鉞ヲ以テ是ヲ

切リクタクハ蝦蟇」(十二ウ)五ツ六ツ出現ス毎年不闕ノ奇特ナリ壇上ノカヘル石ト申ス事モ故アル事ニヤ神使小弓小矢ヲモテ是ヲ射取テ各串ニサシテ捧モチテ生贄ノ初トス凡當社生贄ノ事淺智ノ疑殺生ノ罪去リカタキニ似タリト云ヘトモ業盡有情雖放不生故宿ノ人中同證佛果ノ神勅ヲウケタマハレハ實ニ慈悲深重ノ餘ヨリ出テ暫屬ニ<sup>スル</sup>結縁<sup>ニ</sup>ノ方便ヲマウケ玉フ事神道ノ本懷ノ和光ノ深慮弥信心ヲモヨフス物也抑狩獵ノ事ハ本誓ノ如クハ一年中四ヶ度各三ヶ日彼此十二ヶ日也シカルヲ頭人氏人自由ノ断簡ヲ加ヘテ日々夜々在々所々恣ニ是ヲ行フ風俗變」(十三オ)化澆季ノシカラシムルナリ豈神慮ニ叶ハンヤ弥能々是ヲ慎ヘキ物カサテ著座次第ハ先大祝樓門五官兩神役<sup>右下廊同</sup>ノ使四人<sup>左廊并</sup>一族氏人同廊ニ行三行ニ膝ヲ重ネテナミイタリノ盃酌三獻ノ後神長御箸ト唱ル聲ヲ聞テ大祝御箸ヲ机ノ飯ノニ立ツ衆人はニ随フ則是ヲ徹ス一會畢テ松明ヲ取テ各ノ退散ス繪有之ノ今夜深更ニ及テ御室ニ歸ル<sup>穴集始終ノ段ニアリ</sup>先萩組ノ座ニシテ神ノ長占ヲ行フ薄ノ穂一束掌ノ内ニ持奉大祝對シテ誦文有」(十三ウ)リ外人ニキカシメス重半ノ点ニ付テ當年ノ神使六人ヲ差定ノス是氏人ノ巡役也繪有之ノ同十七日神殿後ニシテ歩射神事有リ御室ノ砌ヲ弓場トス大祝<sup>衣布神官</sup>神官<sup>袴水干</sup>著坐シテ人數ヲ相トノフ射手二十ノ番各水干葛袴ヲ著ス占手ヲハ神長<sup>面影</sup>イ<sup>ヲモチ</sup>小弓柳小矢ヲトリテ静ニ歩ミヨリ<sup>白黒</sup>黒眼ヲ射トラス蚩尤力眼ナンドト云ヘル事歟射禮ヲハリテ饗膳有リ氏人ニオイテハ公役ノ外今日ノ以前のヲ射スト云此謂也」(十四オ)繪有之ノ二月十五日ハ下宮同神宮寺ニシテ常樂會舞樂有リ釋尊ノ涅槃ノ令節ヲ迎ヘテ神明結縁ノ大會ヲ行フノ<sup>朱ニカ</sup>四月十八日ハ上宮ニシ花會有リ兩社相對シテ如來設

化ノ始終ヲツカサトル神納捧物饗膳等左右ノ頭人ノ經營也此外大小神事春祭ノ外七十餘日兩社同日同會也此一會ノ時節不同ノ間別ニ是ヲ記ス當社ハ春秋ノ兩宮有リ春ノ宮山川ノ景趣花樹艷色時ヲエテ法會ノ壯觀ヲソフ」(十四ウ)繪有之ノ二月晦日荒玉ノ社ノ神事當年ノ神使六人<sup>上廊四人下廊二人</sup>童子直ノ垂ヲ著シテ出仕饗膳アリ頭人ノ經營ナリ是則正月一日ノ御占ニ任テ氏人ヲ差定テ其子孫ノ中ニ婚姻未犯ノ童男ヲ立テ来月初午以前三十ヶ日ノ日限ヲ點シテ面々新造ノ假屋ヲカマヘ神事ヲ初ム先神長此室ニ望テ御作神ヲ立神使ノ食物飯酒魚鳥ノ上分ヲタムケテ日々行水散供祓ノ儀嚴重ナリ隨遂祿人已下從類相共ニ潔齋此處女人ノ經廻ヲトム若觸穢アル時ハ此神必タハリヲナス鳥犬ニ到マテ其罰ヲ被ル不思議ノ事也三月以後大祝ノ左右ニ随ヒテ明」(十五オ)年正月一日ニ至マテ神事ヲ取行フ當社末社ノ内若宮児宮マノシマス神代童躰ノユエ有ル事等ナリ繪有之ノ祭ニ春下繪攝津守隆昌ノ詞青蓮院二品親王尊圓御筆ノ三月一日禊十三ヶ日神事相續ス當年ノ神使六人立テ始ムノ先始ノ午ノ日下藹二人<sup>神外ツトラス大明</sup>巡禮三反ノ後今ノ夜大宮ニマフテ外ノ諏方郡ニ發向ス勝劣異ナリトイヘトモ其儀式酉日ノ大會ニ見エタリ末日<sup>トコマツトヤシロ</sup>所末戸<sup>社</sup>神事假屋」(十五ウ)ヲカマヘテ稻穂ヲ積テ其上ニ皮ヲ敷テ大祝<sup>衣布</sup>坐トス神使四人<sup>上廊五人下廊一人</sup>平坐ニ付テ盃酌三獻ノ後御室ニ歸リマイル稻穂ヲトルノ事天子大嘗會ノ時此禮有神代定テ故アル事ニヤ申日人屋ノ神事コトシケキニヨリテ是ヲ略ス繪有之ノ酉日神使四人上藹御立御神殿<sup>ガウバ</sup>神原廊ニシテ神事饗膳アリ禽獸ノ高モリ魚類ノ調味美ヲ盡ス今日堂上堂下郭外ノ儀ノ式計會ス所持ノ神<sup>髮筋一兩ヲツケタリ</sup>面々ニ是ヲ獻ス神長トリ調テ

一束ニ結合セテ御枝ト号シテ是ヲサ、ク亦御寶大輪ノ錦ノ（十六オ）袋ニ納テ鎖ニ懸ク次ニ新神使二人内縣著坐上介獨起テ大祝ノ前ニ蹲踞大祝玉鬘カッパ藤白波結テ神使ノ頸ニ懸ク神ノ長御杖ノヲカサリ神使ニワタス神使コトサラ手ヲカク從人是ヲ助テ本坐ニ歸ノリ下介前ニ同シ小懸二人進退亦如此コノ間ニ神使ノ鞍馬ヲヒキクタシ盃酌出ヌレハ四人共ニ庭上ニ立ツ巫女等介錯大祝ノ同ク出テ相フ彼是床子ニ付ク大祝言ヲヨミアク口傳アリ神使口マノネヲス其後御手拂手々群集ノ縋素悉是ニ随フ其聲ノシハラクヤマズ内外ノ龍蹄驚動スシツマリテ後神使皆馬ニ乘ノリ打立此時神長酒ヲ馬上ニ捧ク柏葉ヲ閉テ蓋トス神使各四度是ヲ（十六ウ）ウク片柏トス其後出門ト号ス漸黄昏ニ及テ内縣小縣二手ノ各松明ヲトリテ樂ヲ奏シテ神殿郭外ヲ逆廻ル御杖騎馬主役御寶或ハ御杖ニ付ハ別ニモツ前後親昵有縁ノ一族氏人等步行ニテ扈從ノス後騎祿人宮仕鳥居ノ下ニマウケマツノ繪有之ノ神殿旋繞座次ニ随テ不同ナリ小縣二反ノ後上原二宿シテ東山ヲヘテ下宮ニ至ル同縣一反ノ後千野二宿シテ郡内南ノ方境ニ到ル三道巡禮共ニ山路ヲヘテ往行三日五日ヲ送ル廻神ト稱シテ村民是ヲ拜ス戌亥子三ケ日ノ神原并人（十七オ）屋ノ神事亦是ヲ略ス丑日先峯ノ多々エ其後前宮ノ神事ノ神使二手内懸御シツマリ落花風ニヒルカヘリ山路雪ヲフム職ノ掌鞍馬金銀ノ莊嚴無雙ノ見物也ノ繪有之ノ寅日御祭祭大宮國司使祭使ト号冠帶在廳官人淨衣等ヲ引卒シテ宮中正面ノ廊ニ著坐前行ノ官人鳥居ノ内右ノ廊ニ著ク則ノ神物ヲ奉ル當所ノ神馬金銀絹布等ナリ次前行ノ在廳四一人ノ池廊ニ望テ大刀ヲヌキテ四角ニ立テ一曲ヲカナツ亦在廳大祝ニ對ノシテ幣帛ヲ捧ク訖テ本坐ニ歸リ付ク此時大祝ト祭使（十七ウ）ト對座盃酌ノ後共ニ退出ス又今日小縣神使歸參六人共ニ會ノ合ス

次ニ神原神事明日ノ射手ヲサタムノ繪有之ノ卯日祝日射禮弓馬射ノ同所大祝已下神官神使射手等ノ著座饗膳ノ儀歩射ノ時ニ同シ勝負次第聊差別有人數ノ皆參ノ後手クミノ散狀一反ヨミワタス其後次第ヲ守リテ左右ノ番々立合人數不定也器用ヲエラフ終日ヲ限ル三番五番亦不ノ同ナリ一會終テ後負ノ方ハ髮ヲミタサル顔ニ墨ヲヌラル亂舞ノ興宴ノ後弓親立テ重テ雌雄ヲ決スカキヲトシノ矢ト号ス前（十八オ）ノ勝又負トナル兩方行事持ト稱ス弓箭ノ道ツイニ和睦ノ儀ノヲ表スルナリノ繪有之ノ辰日先祢宜送ノ儀有リ禰宜ノ私宅ニシテ饗膳如常神事ノ以後刑罰ヲ行フ面縛ノ儀ヲ表シテ繩ヲ人ノ頭ニカク次ニ神使ノ六人庭上ニシテ字壺ヲ左ニ付テ著坐神官等同坐三獻ノ後打立ノテ野燒ニ趣ク大祝神官ノ外氏人干水本人數ヲ卒シテ大宮ノ前ノヲヘテ北ノ鳥居ノ一妙山ノ鼻ヨリ野火ヲ放テ野燒ノ社ニ到ル御ノ子村小笠懸有リ行騰ノ上ニ征矢ヲ付射禮畢ヲ馬上ニシテ（十八ウ）三獻盃ヲ右ニ取テ左ニ落ス鹿ノ折骨ヲ下宮モテ肴トス歸路万ノ歳ヲウタフ次ニ馬ヲ馳テ時ノコエヲアク戰場得和ノ禮ヲ表スノルヲヤノ繪有之ノ巳ノ日新申先大宮ニ詣テ饗膳有リ神原ニ到テ亦神事ノアリ大祝以下神及神使氏人小々神殿ノ酒倉ニ。○人テ萩ヲモチテ鹿ノ折骨ヲ燒テ肴トス神使六人歌ヲウタヒテ歸路ニ高石上ニノ於テ塩水ヲソ、キテ人ヲキヨム雅樂役次ニ夜ニ入テ大祝ト内玉殿ニノ詣テ寶殿ヲ開テ神寶ヲ出ス諸人競テ拜見ス八叫ノ鈴眞（十九オ）澄鏡御鞍轡ナリ氏人外影ヲ鏡ニウツサス午日磯並磯サシノ明神ト号ノ神事彼社ノ拜殿ニシテ饗膳如常歩射二十番切のヲ用ルノ歸路ニ草花ヲ結ヒテツレカラトシテ人コトニ頭ニカケテ家ニカヘルノ繪有之ノ祭第三夏上繪隆盛ノ詞久我内大臣家筆ノ四月朔日一三日神事饗膳如常同七日大宮

ニシテ花會ノヲ<sup>右頭</sup>行フ舞樂アリ大祝<sup>帶束</sup>神官淨衣神使赤袍<sup>人袴</sup>氏ノ左右頭人淨衣社僧法眼著坐次第如常饗膳已後ハ神物<sup>（十九ウ）</sup>ヲ引ク大祝ノ分劔弓征箭<sup>騰</sup>行<sup>騰</sup>鞍馬<sup>轡總</sup>引副<sup>○并ニ</sup>。饒馬ノ等也其外神官社僧七拾余人ニ鞍馬兵具絹布等ヲ分配ス次ニ頭人奉幣ス膝突神物<sup>銀細絹布白紙散供</sup>廣蓋ニ入テ寶前ニ奉ルノ亦樓門前ノ廊ニ於テ舞樂有リ都鄙ノ伶人會合ス舞ノ訖テ左右ノ舞師祿ヲ賜フ絹一領ナリ其後貴賤退散ス繪有之ノ八日同會<sup>頭左</sup>神宮寺ニシテ法會舞樂有リ兼テ高座二脚ヲノ外陳ニ迎立テ法華講論アリ亦百種<sup>十物</sup>棟物ヲ堂前中央ノ間ニ積ミ置ク大祝以下神官兩頭人皆同廊ニ著ス引物<sup>（二十オ）</sup>ノ員數昨日ノ如ク左右棧敷内外ノ衆人一山衆ニ充滿ス先ノ大行道有リ衆徒<sup>眼法</sup>兒童<sup>千水</sup>以上花管モツ伶人樂器ヲシタノカヘタリ亦兩頭人左ハ花管ヲ捧ケ右ハ薪ヲモチテ旋繞ス從ノ類濟ニ相隨フ樂屋乱聲ヲ奏シ舞樂秘曲ヲ盡ス終日ノ儀也其際酒宴ヲ<sup>魚菜</sup>以テ珍トス晚ニ及テ兒童二人左ノ右ノ樂屋ヲ出テ頭役下符ヲ捧テ大祝ノ前ニ到ル氣色ヲノ伺テ頭人ノ代官ニワタス左右ノ舞師祿ヲ給テ退下ス嚴重ノ氷雪ノ境ナレハ殘花ノ艶春ヲ留テ山中寺社ノ景趣尤幽奇ノ也<sup>（二十ウ）</sup>繪有之ノ十五日神事領家ノ所役トシテ當郡ノ貢ニアツル所也恒例ノノ朔望ニハコト也今日故別會等アリ流鏑馬<sup>十番郡内列卿</sup>ノ役田樂十二人御子村八騎已上一二ノ鳥居ノ中間ヲ馬場トス各行粧神妙也亦相撲二十番雌雄ニツキテ緑布ヲノ賜フノ繪有之ノ二十七日矢崎祭饗膳以下トノフリテ<sup>（アセ）</sup>後野火ヲアク煙ヲ見テ各ノ大年ノ宮ニ詣大祝布衣假屋ニアリ其外詞官氏人皆芝居ニ著坐<sup>（二十一オ）</sup>カネテ數枚楯ヲ立ナラフ軍■陣發向ノ儀式ナリ盃酌已後犬追ノ物<sup>不人數</sup>次ニ御座處ノ宮ニ詣ヅ座席先ノ如シ神事饗膳畢テ大ノ草ヲトル五月會參詣ノ人數ヲアヒ

トノフル儀也ノ繪有之ノ五月二日御狩押立進發行列如常宮川ノ高橋ヲ渡テ前ノ行旗二流<sup>左義右義</sup>雅樂黃衣ニ行<sup>騰</sup>ハキテ是ヲサス次ニ五ノ官淨衣六神使<sup>衣赤</sup>以上下藹ヲサキトス引馬數拾匹此ヲ引次ノ大祝<sup>同義</sup>後騎氏<sup>人子袴裝束</sup>歩行ノ僅僕濟々タリ力者二人ヲ相具シテ柄長ノ柄杓并ニ引目ヲ<sup>（二十一ウ）</sup>モタシム中間雜色數多酒室ノ社前ニ至ル此処ニシテ三頭對ノ面ノ礼ヲナス其後長峯山ニ登ル其勢相列ナレリ亦狩集會ノ大相木ニシテ宇津保ニ改メテ二流ノ旗ヲ守リテ左右ニ相分テ夏ノ野ノ草ノ中ニシテ所々ニ狩人散乱ス臺弓良山ニテ鹿ヲ出シノテ面々是ヲ射ル四日ニ至ルマテ三ヶ日ノ儀式也其間或ハ宅ニ歸リノ或ハ山ニ留リテ狩獵ヲ致スサシモ堪能ノ輩數百騎ニ及ト云ヘトモノ矢ニアタル鹿兩三ニスキス諏方野ノ鹿ニアアリト云古老ノ詞有リノ業深有性ノ本誓ニヨレルニヤ尤貴フヘシノ繪有之<sup>（二十二オ）</sup>祭第四夏下繪隆盛ノ詞久我内大臣家ノ同五日朝本社ノ祭礼五月會頭ト号ス大小神官氏人著坐ノ面々饗膳ヲマウケ引キ物有リ是左頭ノ經營也先大祝ノ分銀劔弓征箭行<sup>騰</sup>查鏡長持鞍馬二匹<sup>銀鞍轡</sup>引副二匹例ノ緑布等也其外五官六人神使ニハ各鞍馬銀劔兩種也巫ノ女人別ニ裝束ヲ賜フ裳唐衣鈴懸帶小袖帷等也雅樂ノ十人ニハ黃衣社僧二十五人ニハ白布員數不同也鞍馬等官ノ職ニ依テ是ヲ加面々從人徹シテ出<sup>（二十二ウ）</sup>繪有之ノ同々本社ヨリ馬場ノ廊ヘワタル行列如常彼所ノ饗膳引物ノ大宮ノ儀ニ同シ右頭人經營也同六日流鏑馬ノ頭<sup>別役人</sup>同廊ノニシテ饗膳引物昨日ノ如シ兩日三座神物役人等自他ツノキタルカスノ引連レタル龍蹄モヲヒタノシクソ見エケル次十三ノ騎馬場ヲアク水干紅葉色ヲ交エ金銀ノ付物日月ノ光ヲミカノキ草樹ノ花ヲカタトル服饒美麗サカリナル見物也

當色僮僕ノノ行粧弓袋サシノ甲冑マテモ心ヲツクシテ調ヘタリ馬場ス  
 ノエニ至リテ長廊ノウシロヲヘテ馬ハモトニ廻リ装束ヲ改メテ」(二  
 十三才)ヤフサメヲ射ル先三頭人次テ氏人已上當色のヲ立ツ次大ノ祝  
 ノ分雅樂的ヲタツ弓箭ノ藝射禮ノ曲面ニ譜代ノ練習左ノ右ニアタハス  
 亦射禮ニ並ヘテ相撲二十番有リ占手左右ノ頭ノ人ノ分供御ノ輩役ニ随  
 フ其外ハ散在ノ國民等也雌雄ニ付テノ毎度祿布ヲ賜フ次ニ著坐ノ仁等  
 悉水干脱テ山ノ如ク積ノ置テ當日ノ奉行人道々ノ輩ニワカチ與フ白拍  
 子御子田ノ樂兒師猿樂乞食非人盲聾病痾ノ類游手浮食ノ族稻麻竹葦  
 ノ如クニ來集テ相争其軀比興也是モノ與物結縁ノ隨一ナルベシ」(二  
 十三ウ)繪有之ノ六月朔日望ノ同日廿日臨時ノ祭ヤフサメ十番地事シ  
 ゲノケレハ略之廿七日テ月ノ大小ニ依  
テ延促アリ御作田ノ狩押シ立テ秋尾ノ澤狩集山上ノ  
 狩倉ヲハス廿九日ニ至マテ三ヶ日ノ儀五月ノ會ニ同シノ繪有之ノ晦日  
 田植藤島社ノ前ニシテ此ノ儀有リ大祝ノ外神官ノ男女衣服ヲ刷テ此處  
 ニ望ム雅樂農具ヲ帶シテ田ヲノカヘス五官ヲ行事トシ巫女ヲ早乙女ト  
 ス職掌土鼓ヲ取」(二十四才)拍子ヲウチ笛ヲ吹キサノヲトツテ歌  
 舞スヲホヌサナカス河邊ノミソニハサマリワリタル今日ノ神事イトメ  
 ツラ也卅日ヲヘテ熟秘ノト成ラ八月一日神供ニ備當社奇特ノ其一也抑  
 コノ藤島ノ明神ト申スハ尊神垂迹ノ昔洩矢ノ惡賊神居ヲサマタケンノ  
 トセシ時洩矢鐵ノ輪ヲ持シテアラソヒ明神ハ藤ノ枝ヲ取ノリテ是レヲ  
 伏シ賜フ終ニ邪輪ヲ降シテ正法ヲ興ス明ノ神誓ヲ發シテ藤枝ヲナケ賜  
 ヒシカハ則根ヲサシテ枝葉ノヲサカヘ花藥アサヤカニシテ戦場ノシル  
 シヲ萬代ニ残ス藤ノ島ノ明神ト号スル此ユヘ也」(二十四ウ)繪有之  
 ノ當郡ノ湖上ニ炎暑ノ比風靜ナル日鯉馳ト云フ漁舟ノ有鯉魚ヲイトル

事也他國ニハタクヒマレナルヲヤ必神事ノノ法則ニアラネトモ神官氏  
 人納涼ノ船遊シテ祭禮ノ饗ノ膳ニタムク其軀ツリ■<sup>フ</sup>ネ數艘多少不同ヲ  
 流ニクミツラネテ堪ノ能ノ射手一面ニタチワタル矢筈ヲ取テ是ヲマツ  
 ニ左右ニ鵜ノ繩ヲツケ其ノ繩手ヲ引テ小舟ニ艘サキタチカコミヲヒロ  
 クナシノ魚ヲコメテ沖ヨリ汀ヲサシテ漕ワタレハ其ノ中魚類恐レノテ  
 彼繩ヲコエント遠海ニナリユケハ両方ノ繩ノハシヲ陸地」(二十五才)  
 ニ取阿克奉行ノ老少是ヲウケトリテ引寄スレハ鯉魚タノエスシテ水上  
 ニヲトル其ノ時面々射手矢先ヲ整テ此ヲ射ル十ノカ八九ハ矢アタリテ  
 波上ニウカフ串ニサスカ如クシテ取り阿克ノ自船中ニ飛入ル魚ナトモ  
 アリ是則上下末社小坂ノ宮鎮  
守濱南宮ノ中間ノ津々浦々ノワサ興アル風情也見物ノ男  
 女屋形船ヲ漁舟ノニコキナラヘテ遊宴ス水上ノ射禮ハ延曆ノ昔尊神化  
 現ノノ奇特也上古風末代ニモ殘レルヲヤ逆縁化導和益ニハモレシノ若  
 シ此理ヲシリナハ龍門三級ノ飛揚モヨシナカルヘキ事也ノ繪有之」(二  
 十五ウ)祭第五秋上 繪 和泉守郊貞法師法名  
通曉七月朔旦本ノ社ノ饗膳常  
 ノ如クシ同日下社ノ御移徒ナリ春ノ宮ヨリ秋ノノ宮ヘ神幸アリ先師子  
 狛犬次ニ相撲ノ人形ヲ歩行ノ神ノ人折島船  
子水干帽肩ニノセテ前行ス次御子村サヒレ  
スラ  
 次御弓鎬ノ御劔納錦袋職掌二人淨衣是ヲサヘク次ニ長櫃一合師ヒシメ  
ヒシメヲ諸  
 役先ノ如シ亦參詣ノ數輩合力シテ第一ヲカキ奉ルノ次五官淨衣高家祝  
 布衣下袴サ  
サキトス次ニ大祝後騎氏人步行ノノ僮僕濟ニタリ中條ノ宿神殿ノ北門ヲ  
 ヘテ秋宮ニ到次ニノ渡物鉾山有其後犬追物例ノ儀アリ七夕本社饗」(二  
 十六才)膳穀葉ヲ以テ至要トス社ノ砌ナル硯石ノ上ニモヨク常儀異ノ  
 ナリ望日盂蘭盆ニヨリテ神事ナシ歸佛ノ儀炳焉ナル物ヲヤノ繪有之ノ  
 廿六日小ノ月御社山登リマシ大祝神殿ヲ出テ先前宮ノ溝上ノ両社ヘ詣テ

後進發ノ儀式アリ神官行粧騎ノ馬ノ行列五月會ニ同シ御旗二流ノ外御札<sup>十三所神名帳アリ</sup>ヲ加フ神長是ヲサス先陣既ニ酒室ノ社ニ至ル神事饗ノ膳アリ亦神物鞍馬武具是ヲヒク別頭役色衆小頭ニ同シノ三獻ノ後雅樂大草薄穂ヲトル群集ノ人數ヲ等數スル義アリ」(二十六ウ)繪有之ノ酒室神事畢テ長峯ヘ打登リテ行々山野ヲ狩必神事ノ法側ニ非ト云ヘトモ鷹ナトスヘテ使フ物モアリ禽獸ヲ立テ射ノ取ル者モアリ漸晚頭ニ及テ物見<sup>カ</sup>ヲ岡ニ至ル見物ノ縋素ノ群集サテ大鳥居ヲ過ル時ハ一騎ツ、声ヲカケテト<sup>朱クワンイ</sup>タル前宮ノ男女ノ部類乘輿騎馬ノ類前後ニツ、キテ櫛ノ齒ノ如シ取ワキ諸ノ國參詣ノ輩伎藝ノ族七。深山ヨリ群集シテ一山ニ充滿ス今夜參ノ著ノ貴賤面々信ヲ起シ掌ヲ合テ祈念ス諸道ノ輩衆ニ藝ヲ施スノ亦乞食非人此處ニ集ル參詣ノ施行更ニ隙ナシ都鄙ノ高容」(二十七オ)處々ニ市ヲナス盜賊退治ノ爲ニ社家警固ヲ致ス巡人ノ甲士晝夜ノコタラス繪有之ノ廿七日早旦ニ御手倉大祝以下大小神官櫛ヲ捧テ山宮ニ詣スノ去夜ヨリ所々ノ神樂鉦鼓ノ音巫女カ詫宣相續シテカマヒスシノ亦散供打マキ積物雨ノ足ノ如シ下向ノ後四ツ御庵ノ前ニテ大ノ祝御手拂衆人展轉シテ是ニ隨フ山谷響ヲ傳ヘ馳馬頻ニ驚ノク次ニ恒例ノ饗膳畢テ後揚馬場打立服鍔鞍馬ノ美麗五月ノ會ニ超過セリ人數ハ時ニ隨テ不定也古ハ百騎計近來ハ僅ニ二三」(二十七ウ)十騎ナトニ減少ス然而神官氏人ノ外ニ諸人随意ノ行粧前ノ後連續ノ儀式比類ナシノ次ニ御狩發向ノ次第輿卷ニ見エタリノ廿八日神事法例昨日ノ如シ其外御狩歸晚ニ及テ左ノ頭人饗膳ノマウケ神物色々鞍馬御贄等引ク色數式目ノ如シ芝居列ノ座ノ次第祭場廣博也事々啓白ノ奉幣御神樂ヲ奉リテ後頭人退散スノ廿九日祭禮ノ条々亦昨日ニ同シ

御狩歸ハ右頭人經營ナリノ盃酌ノ後矢拔アリ雅樂ニ仰テ狩人ノ中ニ鹿ノ射手ヲ召出シ」(二十八オ)テ尖リ矢ヲ<sup>副花ヲ取給フ</sup>給フ<sup>大鹿分八中鹿分六妻鹿分四鹿子猪鹿各二テリ</sup>是ヲ取テ再拜シノテ退出當座儀式尤眉目タリ亦相撲二十番アリ占手供御ノナリ右左頭人雌雄ヲ決ス兩方ノ介錯確執ノ類也社司是ノヲ制ス亦今日ノ水干脱來集ノ輩ニ分チアタフル事其數五ノ月會ニ倍增ス繪有之ノ祭第六秋下繪郊貞法師ノ詞石山前大僧正筆ノ御社山七月御狩三ヶ月五月ノ如シ但行列ノ行粧山ノ中ノ儀式」(二十八ウ)ニハ異也先大祝并ニ左右ノ頭人揚裝束其外射裝束ニ改テ射馬ノニ乗替テ打立ツ色々ノ水干思ヒ々ノ篋矢行騰<sup>騰カ</sup>等也亦馬場ノ揚馬金銀鞍<sup>ギ</sup>ヲ置總轡ヲカケタル舍人等乘馬アテ引連ヌノリ口<sup>クチ</sup>ト号ス亦倉通ノ神幸有ト申傳タレハ真俗貴賤ヲ論ス此山ニ入テ動揺ス大祝至時望見テ狩奉行山口ヲ開キ則面々競争ノテ左右ノ旗ヲ守テ狩場ニ出千種ノ花高クシテ人馬ヲワカタス纔ニ弓ノハス笠ノハナト見ユ此時禽獸飛馳走シテ狩人猥騷ス林木ノ岩石ノ嶮岨ヲキラハス數百騎クツハミヲ並ヘテ山中モラスト云ヘトモ矢ニ當ルモノ両三ニスキス本誓悲願ノ到リ神詫ノ文古老ノ説スコフル」(二十九オ)符合セシムルモノカ各御庵ニカヘリテ後小笠懸千度詣宮通面々心々ノ勤ヲ致サテ此御狩ノ緑ヲ尋レハ大明神昔天竺波提國ノ王ノタリシ時七月廿七日ヨリ同晦日ニ至ルマテ鹿野苑ニ出テ狩ヲセサセ賜ノヒタル時美教ト云乱臣忽ニ軍ヲ卒シテ王ヲ害シ奉ラントス其時王ノ金ノ鈴ヲ振テ蒼天ニ仰テ八度叫テノタマハク我々今逆臣ノタメニ害セラレ<sup>ニ</sup>ントス狩ル所ノ畜類全ク自欲ノタメニアラス佛道ヲ成ノサシメンカ為也是若意ニカナハ、梵天我ヲスクヒ賜ヘト其時梵天ノ眼ヲ以テ是ヲ見テ四大天皇ニ勅シテ金剛杖ヲ執テ群

黨ヲ誅／セシメ玉ヒニケリ今ノ三齊山具儀ヲウツサル、ヨリ申傳ヘタ  
 リ八叫鈴」(二十九ウ) 則天竺波提國ヲ指ナリ彼國ノ靈寶ヲ傳テ今ノ  
 神宝ニ用タリ／四維ノ御柱ハ四王擁護ノシルシ九隱薙鎌衆魔催狀ノ和  
 劔ナ／リ爰ニ知ヌ神明慈悲ノ收獵ハ群類濟度ノ方便ナリト云フ／事ヲ  
 ／繪有之／晦日下御早且四御庵ニシテ神事饗膳例ノ如シ大祝神官／等  
 著座先御符ヲ認兩頭ノ代官ニクタス惣テ一年中役人十余／輩皆丹誠ヲ  
 抽テ一生ノ財産ヲナクサレハ謀叛八逆ノ重科モ／頭人寄子悉ク武家ノ  
 免許ヲ■<sup>蒙</sup>テ生涯ヲ全スル事古今断」(三十オ) 絶セス其子孫イマタア  
 リ神徳ノ至誠不思儀也亦明年ノ頭役／ヲ差定テ後面々ニ打立テ山ニ出  
 ツ楨木立テ上矢ヲ射立テタムケトス／鹿草カ原ニシテ草鹿ヲ射テ各サ  
 トニカヘル／繪有之／八月一日本社ノ祭供ヲ以テ御射山カエリ申ス饗  
 膳常ノ／コトシ今日御作田ノ熟稻ヲ奉獻ス亦雅樂ニ仰テ童部ヲ／召集  
 テ神長大祝ノ前ニ進テ御穀ヲトリテ彼童ノ口ニク、／メテカイヲモツ  
 テホウヲタ、キテ仰セ詞有リ亦鋤鋤ヲ作リテ／彼ノ童ニアタヘ東作ノ  
 業ヲ表ス今夜大小神官大略通夜セシム」(三十ウ) 繪有之／同十五日  
 放生會饗膳例ノ如シ一二ノ鳥居ノ間ニ出テ流鏑／馬御子村相模<sup>模カ</sup>田樂  
 等アリ當社放生ノ儀式嚴重也善／巧方便之殺生ハ凡慮ノ測ル所ニアラ  
 サルヲヤ／繪有之／九月朔日望饗膳重陽ノ神事流鏑馬是ヲ略ス／下旬  
<sup>翌</sup>秋尾ノ祭御狩アリ大祝以下ノ大小神官深山ニ／ノホリテ三ヶ日逗留  
 ス其儀御射山ニ同シ御庵ノ圓形／一面ノ庭火ノミカハレリ亦饗膳餅酒  
 馬草栗稻毎」(三十一オ) 人ノ前ニ是ヲ積置故アル事ナルヘシ／繪有  
 之／第三日朝霧ニ四方ノ鹿ヲマキヲトシテ大葦原ニテ狩／獵ス山路ノ  
 紫菊霜ヲ帶テ蕭疎タリ嶺林紅葉風ニ／随テ散乱ス折ニ觸タル景ノ趣感

ヲ催サスト云事ナシ／繪有之／下山ノ日<sup>申寅</sup>國司ノ使在廳ヲ卒シテ本社  
 ニ參行ス大／小神官著<sup>座</sup>。ノ次第祭禮ノ儀則神寶ノ調進官人ノ進／退見  
 物春ノ季ニ同シ」(三十一ウ) 繪有之／祭第七冬 繪 隆章法師ノ詞  
 六条中納言家ノ十月ニハ神無月ノ名ニヲフニヤアラン恒例朔望饗膳  
 ノ／外祭奠ナシ砌ニ滿ル霜葉ハ錦繡ノタムケ色ヲ殘シイカキ／ヲタ、  
 ク時雨ハ巫女カ歌ノ聲ニコトナリ神サヒワタル宮ノ中カ／クテモ中々  
 タウトクミエタリ／繪有之／(三十二オ) 中古ノ比ヨリ神事ノヒマト  
 号シテ神官氏人ヒソカニ神野ヲ犯シテ狩／獵ヲイタシテ禽獸ヲ見ル嚴  
 重ノ怪異ニヨリテ事顯レ罪名裁断／ニ及フ近クハ則當郡桑原郷甲州加  
 世上郷等ノ地頭職ハ彼ノ科ニ／ヨリテ没収セラレケリサレハ其比神野  
 フオカスモノナカリケリ一人ヲ禁メテ／萬人ヲコラス憲政タル由時ノ  
 人稱美ス末代ニ至リテ如此嚴■制モ／行レ難キニヤ近代ハ狩奉行ノ知  
 ナハ甲冑ヲ帶シテ制止ヲ加フトイ／ヘトモ法ヲ守ル者スクナシツイニ  
 神罪ヲ蒙ルトナン尤恐ヘキ事也／繪有之／十一月廿八日ナン畢リ神使  
 御立マシ／皆神殿ヲ起」(三十二ウ) テ三匝ノ巡禮如昔山路ノ寒風  
 ハケシクシテ素雪袂ニ／ミチ赤袍色ヲ變ス其興ナキニアラス／繪有之  
 ノ十二月廿二日一ノ御祭大祝以下神官所末<sup>トコマツト</sup>戸社ニマウツ／行列例ノ如  
 シ饗膳ノ儀亦如常同日御室入大穴ヲ堀テ／其内ニ柱ヲ立テ棟ヲ高ク萱  
 ヲ葺テ軒ノタル木土ヲサ、ヘタリ／今日第一ノ御躰ヲ入奉ル大祝以下  
 神官參籠ス同廿／四日シンフクラヲ祭ル禮アリ先神長立テ陸奥國セン  
 ノ／ヨツカフシノヒトリ姫御前腹ヲヤマセ給フニセイモン博士ニト  
 ハ」(三十三オ) セ給ヘハ東山信州諏訪郡タケ井ノ御里ニイコモラセ  
 ヲハシ／マス大明神ノ御室ノ中ニアルシンフクラト云鳥ヲ御藥ニツカ

／ハセ玉ハ、御腹ナヲラセ給フヘシト申候間御使ニマイリテ／候ト云フ權ノ祝出テ合フ御文ハ候カ御鷹ハ候カト問共／ニアルト答フツカハセ給ヘト云時ニ神長福太郎トヨヘハ雅樂ノ犬ニナリテ鈴ヲナラシテハシリ出ツ此時ニツカレヲヤレハ犬カキマ／ハリテ鳥ヲ見付ル勢アリ其後雅樂等外居ノ飯ヲ取テ／著坐ノ神人悉引ク是則安倍高丸追罰ノ時尊神ノ旅客ノ質ヲ現シテ官軍ノタメニ籌策ヲ回ラシ玉ヒシニヨリテ「(三十三ウ) 彼後見方娘ヲメサレテ其望ヲカナヘサセ玉ヒシ昔ノ諺今モタエス／ト也同廿八日瓶子調へ神官氏人乱舞興宴アリ同廿九日／大夜明大已祭亦御躰三所ヲ入奉ル其儀式ヲソレアルニヨリテ／是ヲ委クセス冬ハ穴ニスミケル神代ノ昔ハ誠ニカクコソアリケメ／繪有之／晦日寅時御手倉送り一年中ノ神事ニ手向ノ幣帛并ニ榊／柳ノ枝柏ノ葉等ヲ御宝殿ニヲサメ是ヲ取シツメテ机飯一膳／ヲソエテ雅樂一人荷檐シテ郡内葛井ノ池ニ入ル翌朝ニ遠／州サナキノ池ニ浮ヒ出ツ村民是ヲ拜シテ渴仰ス神變奇」(三十四オ) 特今ニ至マテ陵遲セサルヲヤ／繪有之／毎年臘月中日限ハサタマラス極寒ノ時節夜ノ間ニ御／渡有リ當社神變不思議ノ專一トシテ事イマタ断／絶セサル所也上下兩社ノ中ノ間ニ五十町湖水アリ冰閉カ／サナリテ厚キ事或ハ四五尺或ハ三尺餘ナリ氷ノ上ニ雪アリ／積テ凍彌アツシ行人征馬ノ通路トシ犬笠懸ノ馬場トスノ漁人綱ヲオロストテ假ニ五六尺切ヒラク時二十人計斧鉞ノヲモテ切テ魚ヲトル然ニ神幸ノ跡ハ廣サ四五尺南北ハ五」(三十四ウ) 十町アキテトヨレリ其氷水底ニ入ス兩方ニアガリテ山ノ如シ／亦佐久新海社ハ行程二日ハカリ也彼明神ト郡内小坂ノ／鎮守ノ明神ト二神湖中ニ御參會アリ然ハ大小通路三ノ／跡辻ノ如クニシテ歴然タリ誠ニ人力ノ及フ

所ニアラス亦神ノ幸畢テ濱神ノ鳴動數十里ニ及フ其聲ヲ聞テ諸人群ノ集シテ是ヲ拜ス倩仕事ヲ尋ルニ彼ノ三條院御宇延久ノ年中當所ニ一生不犯ノ行者有リケリ時輩ノ諺ニタフト房ト／号シケル發願シテ云ク我受生以來アヘテ禁戒ヲ犯サス酒肉ノ五辛ヲ食セス讀經誦咒ノ勤行晝夜ヲコタル事ナシ願ハク」(三十五オ) ハ明神御渡ノ儀ヲ拜セント祈テ夜々湖水ヲ渡テ寒水ニ臥スノ事累日也或夜五更ニ及テ千萬ノ軍卒發向ノ勢有其形ノヲ見奉ラス空ニ聲アリテ手長有ヤ目キタナキモノ取テ捨ヨト聞／コユ則人ノ近ツクヨソホヒアリテ其時アラクスツルナト仰スト聞テ忽然ト／シテ熟睡ス翌日ニ日出ノ程ニ眠リサメテヲキアカリテ左右ヲ見レハ／我境ニ非ス慮外ノ路次也行人ニ此在所ヲトフ遠州サナキノノ社ト答フ／征夷大將軍正二位源朝臣尊氏ノ此奥書之詞卷之奧ニ如此有之仍自余之卷略之而已」(三十五ウ) 竊ニ以明ノ神之道其義邈ノ哉陰ノ陽不測ニ／儀之覆ノ載無レ私日ノ月俱ノ懸萬ノ古之光ノ輝ノ鎮ノ照於レ是信ノ州諏ノ方大ノ明ノ神者内秘三薩ノ／垂之證ノ位ノ外開ニ和ノ光之化ノ門ノ垂ノ迹以ノ来ノ多ノ般奇ノ特載ノ之在レ右不レ可ニ重ノ宣ノ圓ノ忠荷ノ繼ニ神ノ氏之遺ノ塵ノ猥居ニ祠ノ官ノ一ノ職ノ仕ノ路ノ之行ノ藏生ノ涯之通ノ塞偏任ニ冥ノ一未レ墮ニ家ノ聲ノ仰思ニ恩ノ德之重一則相下ノ似令中レ蚊負上レ山伏省ニ謝ノ賽之微一則祭ノ何以レ蠡測レ海方ノ今表ニ最ノ」(三十六オ) 初鎮ノ坐之根ノ元ノ演ニ無ノ邊和ノ生之眞ノ趣ニ圖ニ／四ノ季大ノ小之祭ノ禮ノ為ニ三十ノ卷ニ真ノ俗之後ノ素ノ欲レ教下至ノ信ノ人彌増ニ渴ノ仰之念一不ノ信ノ者始ノ起中歸ノ敬之心上者ノ也因假ニ丹ノ青之文一寫ニ今ノ古之端一今ノ上皇ノ帝辱下ニ外ノ題之宸ノ翰一征ノ夷將ノ軍敬記ニ

全、部之奥、書一親、王台、司貴、種卿、士或録二其義、趣一或書二其、詞、章一文、字、則模二王、逸、少之精、神一畫、圖則倣二吳、遣、玄、之妙、手一琢二荊、山之璞一以為軸鑲二麗、水之、(三十六ウ)金一以鏤レ標恭、冀書、畫不レ朽而傳二萬、孫之、家一利、益無レ偏而被二率、土之俗一特、請國、家、安、全禮、奠復レ舊干、戈永戢、悉浴二皇、澤一于、レ時延、文丙、申薦、月上、澣執、行法、眼和、尚、位圓、忠謹、誌「右尊神縁起上下兩帙於金剛峯寺悉地院以同院之盛圓法印之本書寫之畢安居中也」(朱明治三十年ヨリ四百一十二年)文明二一年七月十一日同十八日一反自見大概校合之金剛佛子宗約生三十二歳(三十七才)右尊神縁起上下兩帙於金剛峯寺悉地院同院之盛円法印之本書写卒予安居中也文明四年七月十一日同十八日一反自見大概交合卒舎利仏子宗宗詢(生冊)南原下防権祝綱政(三十七ウ)※三十七丁表は裏表紙見返しに相当する。また、三十七丁裏は裏表紙に貼付された紙片に相当する。